

2013年11月1日

国際会計基準審議会 御中

改訂公開草案「保険契約」に対するコメント

当委員会は、保険契約プロジェクトにおける国際会計基準審議会（IASB）の長年にわたる努力に敬意を表するとともに、2010年の公開草案（以下「2010年公開草案」という。）に続き、改訂公開草案「保険契約」（以下「本改訂公開草案」という。）により、再度広く関係者のコメントを求める決定を行ったことを歓迎する。

全般的なコメント

1. 我々は、保険契約が企業の財政状態及び財務業績に与える影響についての透明性を向上させ、保険契約の会計処理に関する整合性を向上させようとする本プロジェクトの目的を支持している。また、我々は、本改訂公開草案は、契約上のサービス・マージンの取扱い、保険契約収益の表示、割引率変動の影響額の表示等に関して、2010年公開草案と比べて一定の改善が図られていると考えている。
2. しかし、我々は、特に次の点について更に改善を図ることが必要と考えている。
 - (1) 基準の適用において、特に重要な原則や用語が十分に明確でなく、財務諸表作成者や監査人が基準の意図を理解して適切に判断を行うことが困難である点。特に、企業に基礎となる項目の保有を要求し当該基礎となる項目に対するリターンへの連動を定めている契約や、基礎となる項目に直接対応して変動すると予想されるキャッシュ・フローに関する取扱いが十分に明確ではない。また、契約上のサービス・マージンをカバー期間にわたって純損益に認識する方法について具体的な指針が示されていないため、統合的な適用が可能となるか否かについて懸念している。我々は、このまま最終基準化された場合、企業間の財務情報の比較可能性が十分に確保されない可能性について懸念している。（具体的な提案に関しては、質問1、2、4、7に対するコメント参照。）
 - (2) 資産及び負債の経済的な対応関係が図られている状況において、結果として、会計上のミスマッチが生じる可能性がある点。例えば、割引率の変動に起因する保険契約負債の帳簿価額の変動額をその他の包括利益（OCI）に表示する場合、企業の資産及び負債のポジション（デリバティブ契約を含む）が効果的に対応しているにも関わらず、会計上のミスマッチが生じる可能性がある点につ

いて懸念される。(質問4に対するコメント参照。)

(3) 個別の要求事項について妥当と考えられるものであっても、改訂公開草案の内容を全体として考えた場合、実務上の取扱いが過度に複雑になっているものがある点。例えば、長期の保険期間にわたる多数の保険契約に対して、本改訂公開草案で提案されているように、将来のカバー及び他の将来のサービスに関連する将来キャッシュ・フローの見積りの変更を契約上のサービス・マージンで調整するアプローチを適用する点は、考え方としては支持するものの、関連するデータの保持や会計処理が過度に複雑になってしまい、結果として、費用対効果のバランスが十分に確保されていない可能性がある点が懸念される。(質問1、6に対するコメント参照)

3. なお、保険契約プロジェクトについては、2008年以來、IASBと米国財務会計基準審議会(FASB)(以下「両審議会」という。)により共同で審議が行われてきたにも関わらず、契約上のサービス・マージンに関する取扱いを含め、保険契約に関する会計モデルの根幹に係る部分で、依然、不一致がみられる。我々は、保険契約の会計処理についてグローバルな整合性を図ることは財務諸表の比較可能性確保の観点から極めて重要と考えており、両審議会によるコンバージェンスに向けた取組みが引き続きなされることを強く期待する。
4. また、我々が本コメント・レターを作成する際の専門的なインプットを入手するために設置した保険契約専門委員会で示された市場関係者からの主な意見のうち、コメント・レター本文に含めなかったものについて、別紙に記載している。
5. 本改訂公開草案における個別の質問に対する我々の回答は、以下のとおりである。

各質問に対するコメント

質問1——契約上のサービス・マージンの調整

次のようにすれば、財務諸表が企業の財政状態及び財務業績を忠実に表現する目的適合性のある情報を提供するものとなることに同意するか。

- (a) 将来のカバー及び他の将来のサービスに関連する将来キャッシュ・フローの現在価値の現在の見積りと従前見積りとの間の差額を、契約上のサービス・マージンに加算又は減算する(契約上のサービス・マージンが負の値とならないことを条件とする)。
- (b) 将来のカバー及び他の将来のサービスに関連しない将来キャッシュ・フローの現在価値の現在の見積りと従前見積りとの間の差額を、直ちに純損益に認識する。

同意又は反対の理由は何か。反対の場合、どのような提案をするか、その理由は何か。

(将来のカバー及び他の将来のサービスに関連する将来キャッシュ・フローの現在価値の見積りの変更に関する取扱い)

6. 我々は、将来のカバー及び他の将来のサービスに関連する将来キャッシュ・フローの見積りの変更について、直ちに純損益に認識せず、契約上のサービス・マージンで調整する方法（アンロック法）を基本的に支持する。
7. 我々は、契約上のサービス・マージンは、保険契約の「未稼得利益」を表すものと考えている。将来キャッシュ・フローの見積りの変更を直ちに純損益に認識する方法（ロック法）によると、当該見積りが当初認識・測定後に変更された場合でも、契約上のサービス・マージンが当初予定したパターンに従って認識されることになる。当該方法によると、当初認識時点と事後測定時点とで、契約上のサービス・マージンの残高が表象する内容が整合的でなくなるため、その性格について説得的な説明が困難と考えられる。
8. 本改訂公開草案では、アンロック法の会計処理に関する提案は、2011年に公表された公開草案「顧客との契約から生じる収益」（以下「収益認識－改訂公開草案」という。）における提案による契約負債の測定と整合的であると説明されている¹。しかし、我々の分析では、アンロック法に基づく会計処理を行う場合、次の2つの方法があると考えている。
 - (1) 将来キャッシュ・フローの見積りの変更を契約上のサービス・マージンで将来に向かって調整する方法（本改訂公開草案で提案されている方法）。
 - (2) 契約期間にわたって見込まれる契約上のサービス・マージンを、保険契約に関する履行義務が充足された程度の見積り（進捗率）に従って純損益に認識する方法²（収益認識－改訂公開草案の第38項及び第49項と整合的な方法）。
9. 我々は、上記いずれの方法による場合でも、契約上のサービス・マージンは保険契約の未稼得利益を表すことになると考えている。我々の検討では、(1)の方法について、本改訂公開草案で提案されているように、将来キャッシュ・フローの見積りの変更を契約上のサービス・マージンに加算又は減算する方式(以下「加減算方式」という。)で行うと、契約上のサービス・マージンの履歴管理が必要になる等、実務上の取扱いが複雑であることに加え、カバー期間の終了直前の段階で見積りの変更が生じた場合、残りのカバー期間の純損益が大きく変動することとなるという見

¹ 本改訂公開草案 BC33 項参照。

² 当該方法は、将来のカバー及び他の将来のサービスに関連する将来キャッシュ・フローの見積りの変更を、契約期間全体の損益に影響するものとして捉えた上で、保険契約に関する履行義務が充足された程度の見積りに従って当期以前に関連すると考えられる部分を当期の純損益に認識する考え方である。

解が示された。他方、(2)の方法は収益認識一改訂公開草案の第 38 項及び第 49 項と整合的な方法ではあるが、加減算方式で行う場合には(1)と比較して実務上の負荷はより大きいとの見解が示されている。

10. このような点を踏まえ、我が国の市場関係者からは、実務上の便法として毎期末時点で契約上のサービス・マージンを再測定する方法を適用可能とすべきとの見解が示されている。こうした取扱いは、会計基準自体でなく、会計基準の適用の問題であるとの指摘もあるが、当該取扱いは、基準の適用にあたって重要と考えている。このため、フィールドワークで得られたフィードバックに基づき、本改訂公開草案で提案されている加減算方式と合理的に類似の結果を示すと見込まれる再測定の方法について、結論の背景又は教育文書において示すことが考えられる。

(将来のカバー及び他の将来のサービスに関連しない将来キャッシュ・フローの現在価値の見積りの変更に関する取扱い)

11. 本改訂公開草案では、(i)将来のカバー及び他の将来のサービスに関連する将来キャッシュ・フローと(ii)将来のカバー及び他の将来のサービスに関連しない将来キャッシュ・フローに区分した上で、後者について見積りを変更する場合は、契約上のサービス・マージンで調整せずに、直ちに純損益に認識することが提案されている。我々は、当該2つの状況を識別することは、契約上のサービス・マージンの適切な会計処理にあたって重要と考えているが、本改訂公開草案においては両者の識別が必ずしも明示的に示されておらず、この点について明確化が必要と考えている。
12. 将来のカバー及び他の将来のサービスに関連しない将来キャッシュ・フローの見積りを変更する具体例としては、発生保険金の見積りを変更する場合(本改訂公開草案の B68(a)項参照)が該当する。このような場合、保険事故は既に発生していることから、発生保険金に関する見積りの変更を直ちに純損益に認識する本改訂公開草案の提案は、IAS 第 8 号「会計方針、会計上の見積りの変更及び誤謬」第 36(a)項の取扱いと整合的であり、適切と考えている。
13. 他方、本改訂公開草案では、B68 項において将来のカバー及び他の将来のサービスに関連する将来キャッシュ・フローと将来のカバー及び他の将来のサービスに関連しない将来キャッシュ・フローとを実務において識別するために具体的な状況が例示されているが、前項に記載した以外で想定されている状況については必ずしも明確でない。この点について、質問 7 へのコメントにおいて記載している。

(契約上のサービス・マージンの純損益への認識パターン)

14. 本改訂公開草案 第 32 項では、残存する契約上のサービス・マージンについて、カバー期間にわたり純損益に認識することが要求されている。また、当該方法については、契約に基づき提供されるサービスの残りの移転を最も適切に反映する規則的

な方法で行うこととされている（斜体部分について強調）。

15. しかし、本改訂公開草案では、「最も適切に反映する規則的な方法」について具体的な取扱いが示されていない。契約上のサービス・マージンは、残存契約期間における未稼得利益を表すものであるため、純損益への認識方法は企業の財務業績に対して極めて大きな影響がある。確かに、保険契約に基づき提供されるサービスの提供パターンは多岐にわたるため、会計基準において認識パターンを一律に示すことは困難と考えられる。しかし、本改訂公開草案に記載されている一般的な原則のみでは、企業の裁量の余地が極めて大きく、企業によって純損益への認識パターンが大きく異なり得るため、財務諸表利用者が企業間の財務業績の比較を適切に行うことが困難になると考えられる。
16. このため、我々は、保険契約の多様性を認識しつつも企業間の比較可能性を確保する観点から、企業が契約上のサービス・マージンの認識パターンを決定するにあたって考慮すべき主要な要素（ドライバー）を示すことを提案する。主要な要素には、例えば、次のようなものが該当すると考えられる。
- 時の経過
 - 保有契約件数
 - 保険契約で約定された保険金額（契約期間中に保険金額が逦増又は逦減する場合）
 - 保有保険金額

質問 2——企業に基礎となる項目の保有を要求し当該基礎となる項目に対するリターンへの連動を定めている契約

契約が企業に基礎となる項目の保有を要求し、保険契約者への支払と当該基礎となる項目に対するリターンとの間の連動を定めている場合において、企業が次のことを行えば、財務諸表が企業の財政状態及び財務業績を忠実に表現する目的適合性のある情報を提供するものとなることに同意するか。

- (a) 基礎となる項目に対するリターンに直接対応して変動すると予想される履行キャッシュ・フローを、基礎となる項目の帳簿価額を参照して測定する。
- (b) 基礎となる項目に対するリターンに直接対応して変動するとは予想されない履行キャッシュ・フロー（例えば契約で定められた固定支払、保険契約に組み込まれたオプションのうち分離されていないもの、契約に組み込まれていて分離されていない最低支払額の保証）を、本基準 [案] の他の要求事項に従って測定する（すなわち、起こり得る結果の範囲全体の期待値を用いて保険契約を測定し、リスク

及び貨幣の時間価値を考慮に入れる)。

- (c) 履行キャッシュ・フローの変動を次のようにして認識する。
- (i) 基礎となる項目に対するリターンに直接対応して変動すると予想される履行キャッシュ・フローの変動を、当該基礎となる項目の価値の変動の認識と同じ基礎により純損益又はその他の包括利益に認識する。
 - (ii) 基礎となる項目に対するリターンに間接的に対応して変動すると予想される履行キャッシュ・フローの変動を、純損益に認識する。
 - (iii) 基礎となる項目に対するリターンに対応して変動するとは予想されない履行キャッシュ・フロー（他の要因（例えば、死亡率）に対応して変動すると予想されるもの及び固定であるもの（例えば、定額の死亡給付金）を含む）の変動を、本基準〔案〕の一般的な要求事項に従って純損益及びその他の包括利益に認識する。

同意又は反対の理由は何か。反対の場合、どのような提案をするか、その理由は何か。

（企業に基礎となる項目の保有を要求し当該基礎となる項目に対するリターンへの連動を定めている契約に関する取扱いに関する考え方）

17. 我々は、資産及び負債の測定基礎は、一般的にそれらの性質に従って決定されるべきと考えている。また、2013年7月にIASBから公表されたディスカッション・ペーパー「財務報告に関する概念フレームワークの見直し」においては、負債の測定基礎の決定について、負債が決済又は履行される方法をベースに決定することが提案されている。この点、本改訂公開草案で提案されている企業に基礎となる項目の保有を要求し当該基礎となる項目に対するリターンへの連動を定めている契約に関する取扱いは、基礎となる項目の帳簿価額を参照して測定することとされており、資産と負債を一つの会計単位として捉えていると考えられる。こうした取扱いは、一般的な負債の測定に関する取扱いと異なる方法であり、会計処理として例外的な取扱いと考えられる。
18. 例えば、変額保険のように、企業に基礎となる項目を保有することが要求されており、当該基礎となる項目に連動したリターンの支払いが保険契約者に対して行われることが明らかである場合には、保険契約負債と基礎となる項目との間で両者のキャッシュ・フローに明示的な相関関係があるものと考えられる。このような場合、資産と負債との間で経済的な対応が図られているため、基礎となる項目と保険契約負債との測定基礎が異なることによって、会計上のミスマッチが生じることは、企業の財務業績を適正に表示する観点から適切でないと考えられることから、本改訂公開草案で提案されているように、例外的な取扱いを設けることを原則として支持

する。

19. しかし、当該取扱いが例外的な取扱いであることを踏まえると、その適用範囲が明確に示されていることが必要である。本改訂公開草案では、この点が明確でないため、適用範囲について、次のような点について明確化が必要と考えられる。

- (1) 基礎となる項目として、「特定の資産及び負債」、「保険契約のプール」に加え、「企業全体の資産及び負債」が挙げられている。このうち、「特定の資産及び負債」はいわゆる投資契約のように投資の運用成績を保険契約者に分配するような状況、「保険契約のプール」はプールした保険契約全体から発生する収益又は剰余金を保険契約者に分配することが想定されていると考えられる。また、我々は、「企業全体の資産及び負債」が基礎となる項目となるような状況は、特別目的会社が資産及び負債を保有しているような限定的な状況を指すものと考えている。しかし、この点について必ずしも明確にされていない。
- (2) 保険契約上、保険契約者に対する支払と当該基礎となる項目へのリターンとの連動を定めていることが要件とされているが、どのような連動の程度が必要であるかについて説明が十分ではない。

(基礎となる項目に対するリターンに直接対応して変動すると予想される履行キャッシュ・フローの測定及び再測定差額の表示)

20. 基礎となる項目に対するリターンに直接対応して変動すると予想される履行キャッシュ・フローについては、基礎となる項目と保険契約との間に直接的なキャッシュ・フローの相関関係があり、経済的な対応が図られている。このため、会計上のミスマッチを削減又は解消する観点から、保険契約負債について、基礎となる項目の帳簿価額を参照して測定するとともに、当該基礎となる項目の価値の変動の認識と同じ基礎により純損益又はその他の包括利益に認識するという提案を支持する。但し、基礎となる項目が異なる測定基礎を有する項目から構成されている場合（例えば、保険契約のプールが、IAS 第 16 号「有形固定資産」に準拠して原価法により測定する不動産、IFRS 第 9 号「金融商品」に準拠して FV-OCI により測定する持分証券、及び、同基準に準拠して償却原価により測定する負債性証券から構成されている場合）、基礎となる項目の帳簿価額をどのように参照して測定して保険契約負債の再測定差額を表示すべきかについて、必ずしも明らかでない。このため、特にこのような状況における測定方法や会計処理のあり方について明確化が望まれる。

(基礎となる項目に対するリターンに直接対応して変動するとは予想されない履行キャッシュ・フローの測定及び再測定差額の表示)

21. 基礎となる項目に対するリターンに直接対応して変動すると予想されないキャッシュ・フロー（契約で定められた固定支払等）については、基礎となる項目と保険契約との間に直接的なキャッシュ・フローの相関関係がない。こうした経済的な対応関係が図られていない部分については、会計上のミスマッチを削減又は解消する観点から、例外的な取扱いを定める必要はない。このため、当該部分については、保険契約に関する一般的な取扱いに従うことが適切と考えられる。
22. また、基礎となる項目に対するリターンに間接的に対応して変動すると予想される履行キャッシュ・フローについては、これらのキャッシュ・フローの性質が実質的にオプション契約と同様であると考えられる。このため、我々は、IFRS 第9号「金融商品」におけるデリバティブ契約の取扱いと整合的に、保険契約負債の再測定差額を直ちに純損益に認識することを要求する本改訂公開草案の提案を概ね支持する。しかし、我々の審議においては、この点について、財務諸表作成者から、キャッシュ・フローの分解方法が複雑で実務上の負荷が高いほか、保険契約の当初認識時点において保険契約からの分離が要求されていない要素について別個に分離することが適切かという点に対して懸念が示されている。

質問3—保険契約収益及び費用の表示

すべての保険契約について、企業が、純損益において、保険契約の構成要素の変動に関する情報ではなく、保険契約収益及び費用を表示するならば、財務諸表が企業の財務業績を忠実に表現する目的適合性のある情報を提供するものとなることに同意するか。

同意又は反対の理由は何か。反対の場合、どのような提案をするか、その理由は何か。

（保険契約収益の表示）

23. 我々は、財務諸表利用者による保険契約に関する財務業績の理解を促すとともに、企業間の財務諸表の比較可能性を高める観点から、保険契約収益及び費用の総額を表示する提案を支持する。
24. また、我々は、保険契約収益について、IASB から 2011 年に公表されている「顧客との契約から生じる収益」で示されている一般原則の考え方にに基づき、保険契約から生じる履行義務が充足される期間において保険契約収益を表示する考え方を支持する。
25. しかし、本改訂公開草案では、報告期間中の残存カバーに係る負債の変動が、企業が当該期間に提供したカバー又は他のサービスを表すとしており、結果として、報告期間中の発生保険金及び費用に対応する収益が保険契約収益として表示される

ことになる。このため、本改訂公開草案で提案されている方法によると、保険金支払額の増加に比例して保険契約収益がより多く表示されることになる。我々は、このような収益の表示方法は保険契約に基づく履行義務の充足パターンを適切に表示しているとは必ずしもいえないと考えている。

26. この点、代替的な考え方の1つとして、保険契約に係る履行義務の提供を、カバー期間中の保険事故に対して保険金の支払いを行う待機義務の提供であると捉えた上で、待機義務の提供に基づき保険契約収益を表示する方法が考えられる。当該考え方に従うと、保険契約収益は契約に従って提供されるサービスの残りの移転を反映する方法によって表示されることになる。当該考え方は、本改訂公開草案の第32項で提案されている契約上のサービス・マージンの認識パターンと整合的であるため、これに従うと、本コメント・レターの第16項で示した主要な要素(ドライバー)を勘案して、保険契約収益を保険期間にわたって規則的に認識することになる。

(投資要素の除外)

27. 我々は、保険契約負債の当初認識・測定時点において、保険要素との間に高い相関関係があると認められない投資要素を分離した上で、認識上は分離されていない投資要素の一部について、表示上は除外するという考え方を基本的に支持する。
28. 我々の審議においては、仮に財務諸表の表示のあり方に問題があるのであれば、認識上の取扱いについて再検討を行い、認識上の取扱いと表示上の取扱いを整合させるべきという見解も示された。しかし、投資要素と保険要素の間に高い相関がある場合、投資要素を分離した上で測定することは複雑性を過度に高めることになるほか、その方法も裁量的になると考えられる。このため、両者の間に高い相関関係がある場合には、本改訂公開草案の要求事項に示されているように、投資要素と保険要素を合わせた形で測定することが適切と考えられる。
29. 他方、例えば、保険契約に含まれる解約返戻金のように、たとえ保険事故が発生しなかった場合でも保険者が保険契約者に返済することを保険契約が要求する投資要素は、銀行における預金と類似の性質を有すると考えられるため、これを保険契約収益に含めて表示することは財務業績の表示の観点から必ずしも適切でないと考えられる。このため、我々は、包括利益計算書の表示上、一定の投資要素を除外して表示する取扱いは、財務諸表利用者による保険契約に係る財務業績の理解に資するものと考えている。
30. 但し、本改訂公開草案で示されている投資要素の定義（「保険契約が、たとえ保険事故が発生しなかった場合であっても、保険契約者に返済することを企業に要求し

ている金額」³⁾によると対象範囲が過度に広くなり、将来のカバーに対応する保険料の前払部分まで投資要素に含まれ得ると考えられる。この点について、財務諸表作成者からは、こうした方法は保険会社内での管理方法と整合的でないほか、投資要素の除外に必要なコストが便益に見合わないのではないかという指摘がなされている。このため、表示上で除外すべき投資要素については、費用対効果に留意しつつ、合理的な範囲に限定すべきと考えている。

31. 我々は、表示上で除外すべき投資要素が含まれる契約を「保険契約者に係る勘定残高が明示的に区分されている契約及び貯蓄性が高い契約」とすることを提案する。これは、保険契約を発行する企業の財務業績の分析において、保険契約者に係る勘定残高が明示的に区分されている契約⁴⁾や貯蓄性が高い契約は他の保険契約と収益性が異なるために区分して評価しているという財務諸表利用者からのフィードバックを踏まえたものである。我々は、対象範囲の明確化と費用対効果のバランスの観点から、これらの契約に含まれる投資要素を表示上は除外することが適切と考えている。
32. なお、上記に加えて、我々は、保険契約負債の当初認識・測定時点における投資要素の分離について追加的なコメントを提供している。詳細は、本コメント・レター第47項(3)をご参照いただきたい。

質問4——純損益における金利費用

下記のようにして、引受業績の影響を割引率の変動の影響と区分することを企業に要求することによって、財務諸表が企業の財務業績を忠実に表現する目的適合性のある情報を提供するものとなることに同意するか。

- (a) 純損益において、契約が当初に認識された日に適用された割引率を用いて算定した金利費用を認識する。基礎となる項目に対するリターンに直接対応して変動すると予想されるキャッシュ・フローについて、当該リターンの変動が当該キャッシュ・フローの金額に影響を与えると企業が予想している場合には、企業は当該割引率を更新しなければならない。
- (b) 下記の両者の差額を、その他の包括利益に認識する。
- (i) 報告日現在で適用した割引率を用いて測定した保険契約の帳簿価額
- (ii) 契約が当初に認識された日に適用された割引率を用いて測定した保険契約

³⁾ 本改訂公開草案 付録A 参照。

⁴⁾ 明示的な勘定残高の識別については、両審議会による2011年11月のスタッフ・ペーパーに記載されている提案を参考にすることが可能と考えられる。

の帳簿価額。基礎となる項目に対するリターンに直接対応して変動すると予想されるキャッシュ・フローについて、当該リターンの変動が当該キャッシュ・フローの金額に影響を与えると企業が予想している場合には、企業は当該割引率を更新しなければならない。

同意又は反対の理由は何か。反対の場合、どのような提案をするか、その理由は何か。

(割引率変動の影響を OCI に表示する点に関して)

33. 保険契約は、保険者が比較的長期にわたって契約に基づく支払いの履行を約束するものであり、当初認識後の状況の変化によって保険料の受取や保険金の支払いのキャッシュ・フローの金額・時期・不確実性が大きく変化する。このような保険契約の性質を踏まえて、我々は、保険契約負債を報告日時点における現在価値ベースで再測定することは保険者の財政状態を表示する観点から適切と考えている。しかし、保険契約負債の帳簿価額の変動のすべてを純損益に表示することは、保険者の財務業績の適正表示の観点から適切とは必ずしも考えない。
34. とりわけ、保険契約に関するキャッシュ・フローが金利水準の変動による影響を含めて大きく変化しない場合には、保険契約負債の現在価値計算を行う際のインプットである割引率の変動による再評価差額の変動は、キャッシュ・フローが発生するまでの期間にわたって自動的に巻き戻ることになる。また、保険契約が比較的長期にわたる性質を有することを踏まえると、割引率の変動によって、報告日時点における保険契約負債の現在価値は大きく変動することが予想される。このため、割引率の変動による影響額のすべてを直ちに純損益に認識することは、保険者の引受業務や投資業務の成果について、財務諸表利用者を誤解させることになるという指摘がある。したがって、当初認識時に適用された割引率を用いて測定された金利費用を純損益に認識するとともに、割引率の変動の影響を OCI に表示する提案については、一定の合理性があるものと考えられる。
35. しかし、割引率の変動の影響を OCI に表示することによって、新たな会計上のミスマッチが創出されるとの指摘がある。例えば、企業の ALM 管理において、保有する資産と保険契約負債とのデュレーションのミスマッチについて金利スワップ等を用いて縮小させようとする場合、デリバティブ契約が FV-PL で測定されて評価差額が純損益に表示される一方、保険契約負債の再測定差額の一部が OCI に表示されることになる。このような場合、経済的には資産と負債との間で対応関係が図られているにも関わらず、会計上のミスマッチが生じてしまうことになる。
36. これに対応するためには、一定の状況が満たされる場合、割引率の変動に起因する保険契約負債の再測定差額を純損益に表示することによって、会計上のミスマッチを削減又は解消することが考えられる。我々は、マクロヘッジ活動の会計のプロジ

ェクトがこうした点を解決できる可能性があると考えているが、いずれにせよ、再審議のプロセスにおいて、会計上のミスマッチへの対応について十分な検討を行うことを期待する。

（「基礎となる項目に対するリターンに直接対応して変動すると予想されるキャッシュ・フロー」に関する処理について）

37. 我々は、保険契約負債の現在価値測定に使用する割引率は負債の特性を反映すべきという本改訂公開草案の提案を支持する。また、我々は、基礎となる項目に対するリターンに直接対応してキャッシュ・フローが変動すると予想される場合、本改訂公開草案の BC121(b) 項に記載されているような状況において割引率を更新する方法は、割引率の決定に関する考え方と整合的と考えている。
38. しかし、「基礎となる項目に直接対応して変動すると予想されるキャッシュ・フロー」がどのようなものを対象としているかについて明確でないほか、場合によっては、割引率の更新が不適切な場合も考えられる。このため、対象とすべき範囲について慎重に検討を行うとともに、適用上の整合性を確保する観点から、この範囲を明確化することが必要と考える。

質問 5——発効日及び経過措置

経過措置について提案しているアプローチは、比較可能性と検証可能性を適切にバランスさせているものであることに同意するか。

同意又は反対の理由は何か。反対の場合、どのような提案をするか、その理由は何か。

39. 保険契約は長期間に及ぶことが多いため、IAS 第 8 号「会計方針、会計上の見積りの変更及び誤謬」に準拠することを要求すると、多くの場合、保険契約負債の当初認識日時点の見積りやその後の期間における見積りの変更の影響額の算定は、実務上不可能と判断されると考えられる。このため、我々は、IAS 第 8 号をそのまま適用することは適切でないと考えている。
40. しかし、本改訂公開草案で示されている「修正遡及アプローチ」によると、過去の取引について、なお様々な見積り計算が必要となる。保険契約のポートフォリオは、通常、長期にわたり、かつ、多数の契約から構成される。このため、過去に締結された契約について遡及して処理する方法は実務上の負荷が大きく、費用対効果のバランスが維持されていないとの見解が財務諸表作成者より示されている。このため、質問 1 へのコメントと同様、費用対効果のバランスを維持するために、移行時の処理として、契約上のサービス・マージンを再測定する方式が許容されるべきである

との見解が示されている。なお、再測定方式を用いて算定した場合、修正遡及アプローチによると原則的な遡及方法であれば損益として認識されていたものが、契約上のサービス・マージンで調整されてしまうという財務諸表作成者からの指摘にも対応することができる可能性がある。

質問 6——保険契約に関する基準により生じる可能性の高い影響

本基準案を全体として考えた場合、提案されている要求事項を遵守するコストが、情報により提供される便益で正当化されると考えるか。当該コスト及び便益は、質問 1 から 5 における提案によりどのように影響を受けるか。当該コスト及び便益は、コメント提出者が提案する代替的アプローチや 2010 年公開草案での提案と比較してどうか。

本基準案全体として生じる可能性の高い影響を以下の点について記述されたい。

- (a) 財務諸表における保険契約の影響の透明性及び保険契約を発行する異なる企業間での比較可能性
- (b) 作成者にとっての遵守コスト及び作成される情報を財務諸表利用者が理解するためのコスト（適用開始時と継続ベースの両方で）

41. 我々は、提案されている要求事項を遵守するコストと、情報により提供される便益について定量的な調査を行っていない。しかし、本改訂公開草案を全体としてみた場合、我が国の市場関係者からのフィードバックを踏まえると、次のような点については、要求事項を遵守するコストが情報により提供される便益を上回る部分がある可能性があると考えている。

- (1) 契約上のサービス・マージンの当初認識・測定後における取扱い（質問 1 へのコメント参照）
- (2) 投資要素の除外（質問 3 へのコメント参照）
- (3) 経過措置（質問 5 へのコメント参照）

42. また、次の点については、本改訂公開草案における要求事項が十分に明確でないため、提案されている要求事項を遵守するコストが情報により提供される便益を上回るか否かについて十分な判断ができない。

- (1) 企業に基礎となる項目の保有を要求し当該基礎となる項目に対するリターンへの連動を定めている契約に関する取扱い（質問 2、7 へのコメント参照）

- (2) 基礎となる項目に対するリターンに直接対応して変動すると予想されるキャッシュ・フローに関する取扱い（質問 4、7 に対するコメント参照）
43. また、保険契約を保有する企業に対して本改訂公開草案における開示項目のすべてを要求する場合、費用対効果のバランスが維持されなくなるほか、不要な開示によって財務諸表利用者にとって理解が困難となる可能性がある。こうした点に関しては、概念フレームワークや IAS 第 1 号「財務諸表の表示」のプロジェクトにおいて議論が行われており、例えば、企業にとって重要でない項目は開示を必要としない旨を明記する等の対応も有用と考えられる。
44. また、本改訂公開草案の第 84 項において、信頼水準技法以外の技法によりリスク調整を算定している場合、採用した技法の結果を信頼水準に変換したものの開示が要求されている。財務諸表利用者からは、リスク調整の測定技法が多様であることから、測定技法の改善や財務諸表の比較可能性向上の観点からこうした開示は有用という見解が示されている。他方、財務諸表作成者からは、次のような見解が強く主張されている。
- (1) 対象とする保険契約によっては、信頼水準法によるリスク調整額の算定は分布のあり方を含め、前提とすべき条件が異なり得る。このため、特定の契約に適していない可能性のある技法による測定値を開示することによって、利用者が誤認する可能性がある。
- (2) 信頼水準技法以外の技法を用いてリスク調整を算定した企業に対して、実質的に 2 種類の技法に基づくリスク調整の算出を求めることになる。こうした数値の算定は実務上の負荷が極めて大きいことから、費用対効果が見合わない。
45. 我々は、当該開示要求について、IASB の再審議において市場関係者とのアウトリーチの結果を踏まえつつ、検討を行うことを期待する。

質問 7——文言の明瞭性

本提案は明瞭に表現され、IASB が行った決定を反映していることに同意するか。

同意しない場合、明瞭でない提案について記述されたい。どのように明確化すればよいか。

46. 我々は、本改訂公開草案において、次の点について IASB の意図が十分に明確でないと考えている。
- (1) **基礎となる項目の定義**（本改訂公開草案 第 33 項、60 項、B68 項）

本改訂公開草案では、「基礎となる項目」という用語が、本改訂公開草案の第33項（保険契約者に対する支払いと当該基礎となる項目に対するリターンの連動の関係）、第60項(h)（基礎となる項目に対するリターンに直接対応して変動すると予想されるキャッシュ・フローの関係）、B68項(d)及び(e)で用いられている。当該用語は、本改訂公開草案に基づく会計処理を行うにあたって重要な概念であるが、想定されている対象が明らかでない。また、基礎となる項目に関する取扱いについては、本コメント・レター第19項及び第38項においても明確化を提案している。

(2) **契約上のサービス・マージンの調整とすべき事象と直ちに純損益に認識すべき事象の識別**（本改訂公開草案 B68 項）

本改訂公開草案 B68 項(b)から(e)において契約上のサービス・マージンの調整として処理すべきかを判断する上で参考とする事例が示されているが、提案されているガイダンスの理解が困難である。例えば、本改訂公開草案 B68 項(c)において、投資要素の返済の遅延又は早期化は直ちに純損益に認識すべきとしているが、具体的な事象が明確ではない。また、本改訂公開草案 B68 項(d)及び(e)において、「基礎となる項目」に関する言及があるが、有配当契約が含まれるか否かを含め、対象とする範囲が明確ではない。当該判断は、保険契約の会計処理にあたって重要であるため、適用指針における説明や結論の根拠における説明を拡充する等の追加的措置が望まれる。

(3) **割引計算の対象項目**（本改訂公開草案 第64 項）

本改訂公開草案の第64項では、保険契約の帳簿価額を2つの割引率を用いて測定した際に生じる差額を、OCI に表示するとされている。しかし、本改訂公開草案の第25項で、貨幣の時間価値を反映するために、将来キャッシュ・フローの見積りを割引く旨が規定されていることを踏まえると、割引計算の対象は、保険契約の帳簿価額でなく、将来キャッシュ・フローの見積りではないかと理解している。このため、我々は、両者の記載が整合的になるよう、第64項を修正すべきであると考えている。

(4) **契約上のサービス・マージンの取扱い**（本改訂公開草案 第30 項）

契約上のサービス・マージンが一旦ゼロになった後、将来キャッシュ・フローの見積りが改善した場合に契約上のサービス・マージンを認識するかどうかの取扱いが明らかでない。我々は、当該取扱いについて、明確化が必要と考えている。

その他のコメント

47. 我々は、質問 1 から質問 7 に対するコメントに記載した部分以外についても、次の点について改善が必要と考えている。

- (1) 保険料配分アプローチを適用する場合において、発生保険金に係る負債の金利費用認識に用いる割引率（本改訂公開草案 第 60 項(h)）

本改訂公開草案では、発生保険金に係る負債の金利費用を認識する上で当初認識時の割引率を用いるとされている。しかし、当該負債は保険事故発生時に認識されるものであるため、保険事故発生時点の割引率を認めるべきと考えられる。

- (2) 元受保険契約が不利な契約であった場合における再保険契約の測定（本改訂公開草案 第 41 項）

本改訂公開草案の要求事項に従うと、元受保険契約が不利な契約であった場合、当初認識時の初期損失は一時に純損益に認識されるが、当該元受保険契約に連動して出再された再保険契約で生じる当初認識時の初期利益は契約上のサービス・マージンで認識されるために会計上のミスマッチが生じることになる。実務上、元受保険契約に連動して出再された再保険契約の締結は元受保険契約の締結と同時に行為ることが通常であることを踏まえると、両者の会計処理が異なるために会計上のミスマッチが発生することは、保険者の財務業績の適正表示の観点から適切ではないと考えられる。このため、当該会計上のミスマッチを解消する観点から、再保険契約で生じる初期利益は直ちに純損益に認識すべきであるとする。

- (3) 投資要素の分離（本改訂公開草案 第 10 項(b)、B32 項）

本改訂公開草案では、保険契約に投資要素が含まれており当該投資要素が区別できる場合、当該要素を主契約から分離して、IFRS 第 9 号に従って会計処理することとされている。また、本改訂公開草案 B31 項において、投資要素と保険契約との相関関係が高い場合には投資要素は区別できないとされており、本改訂公開草案 B32 項において、次の場合が該当するとされている。

- ① 企業が、一方を考慮せずに他方を測定することができない場合、又は、
- ② 保険者が、他方の構成要素も存在していないと一方の構成要素から便益を受けることができない場合(契約の中の一方の構成要素の失効又は満期により他方の失効又は満期が生じる場合を含む。)

我々は、上記いずれかの要件を充足することが、必ずしも投資要素と保険契約とを一体処理することが必要な相関関係が高い状況を表すことにならないと考えている。例えば、我が国では、保険者が業務の一環として、契約者に貸付を行うことがある。保険者は、通常、保険契約者に対して解約返戻金を下回る金額の範囲で貸付を行うとともに、保険契約が失効又は満期により消滅する場合、解約返戻金と相殺して、貸付金を回収しうる仕組みになっている。本改訂公開草案によると、こうした貸付契約は②の要件を満たすため、保険契約と一体処理することになる。

しかし、保険契約の価格付けはこうした貸付と併せて行われるものでないほか、保険契約があることで保険者が保険契約者に対して貸出金利の優遇を与えるものでないため、当該貸付契約は、保険者が、解約返戻金を担保として保険契約者に貸出を実行しているものと捉えうる。このため、保険契約が失効又は満期により消滅する状況で貸付金が返済される場合でも、両者を一体の保険契約として処理するよりも、両者を区分した上で、貸付金を IFRS 第 9 号に準拠して処理することが経済的実態をより適切に表すものと考えられる。したがって、我々は、「投資要素と保険要素の相関関係が高いか否か」を判定する趣旨を明確にした上で、②は①の要件を判断するにあたっての考慮事項とすることを提案する。

我々のコメントが、当プロジェクトにおける IASB の今後の審議に貢献することを期待する。

新井 武広

企業会計基準委員会 副委員長

(保険契約専門委員会 専門委員長)

(別紙) 保険契約専門委員会で示された市場関係者からのその他の見解

我々は、本改訂公開草案の提案内容について、財務諸表利用者、作成者、監査人を含む市場関係者から構成される保険契約専門委員会を設置し、検討を行った。我々の審議の過程では、様々な見解が示されたが、すべての見解が本コメント・レターの中に含まれている訳ではない。以下の見解は、同専門委員会で示された主な見解のうち、本コメント・レターの本文で示した考え方とは異なるものの、IASB における今後の審議にあたって有用と考えられたものであり、本文のコメント・レターに添付する形で示している。これらは、ともに、将来キャッシュ・フローの変動が契約上のサービス・マージンとして負債に認識される一方、割引率の変動の影響が OCI に認識されることに関連する懸念である。

- 本改訂公開草案の要求事項によると、費差損益や危険差損益に関連する部分を含め、将来キャッシュ・フローの見積りの変更の影響が契約上のサービス・マージン（負債）に認識される一方で、割引率の変動の影響が OCI（資本）に認識されることとされており、我々の審議においては、移行日時点の累積的影響が保険者の財政状態に極めて重大な影響を与える可能性があるとの指摘がされている。特に、我が国のように、当初認識時点と比べて移行日時点における金利水準が大きく低下している状況では、過去に締結された保険契約に係る費差益や危険差益が利差損を補っている場合がある。このような契約を多く保有する保険者においては、提案されている会計処理が適用されることにより、資本勘定に極めて大きな影響を与える可能性があることから、移行時における経過的な取扱いも含め、慎重な検討が必要との見解が示された。
- 本改訂公開草案では、将来キャッシュ・フローの変動の影響は契約上のサービス・マージン（負債）に認識される一方、割引率の変動の影響は OCI に認識することとされている。しかし、金利の変動によって解約率が大きく変動するような金利感応度の高い保険契約については、金利リスク管理の一環として、金利変動に伴う将来キャッシュ・フローの変動と割引率の変動による影響を一体で管理している実務がある。こうした場合、金利変動に伴う将来キャッシュ・フローの変動の影響と割引率の変動の影響を一体として表示することが、財務業績を適正に表示する観点から適切との見解が示された。

以上

1 November, 2013

The International Accounting Standards Board
30 Cannon Street
London EC4M 6XH
United Kingdom

Dear Sir or Madame,

Comment on the Exposure Draft ED/2013/7 Insurance Contracts

The Accounting Standards Board of Japan (the “ASBJ” or “we”) appreciates the many years of efforts made by the International Accounting Standards Board (IASB) in relation to the Insurance Contract project, and welcomes the decision to re-expose the revised proposals in the Exposure Draft, *Insurance Contracts* (the “Re-ED”) for public comment, following the 2010 Exposure Draft *Insurance Contract* (the “2010 ED”).

General Comments

1. We support the objective of this project to improve the transparency of the effects of insurance contracts on an entity’s financial position and financial performance, and to improve the consistency in accounting for insurance contracts. We are of the view that the Re-ED has undergone considerable improvements since the 2010 ED, especially in the areas of the treatment of the contractual service margin (CSM), the presentation of insurance contract revenues and the presentation of the effects of changes in discount rates.
2. However, we are of the view that further enhancements are necessary particularly in the following areas:
 - (a) Key principles and critical terms are not sufficiently articulated in the Re-ED, which will make it difficult for preparers and auditors of financial statements to properly understand what is intended by the proposed standard, thereby making it difficult for them to exercise the appropriate judgement when applying the proposed standard. Specifically, it is not sufficiently clear how to account for a contract that requires an entity to hold underlying items and specifies a link between the payments to the policyholder and the returns on those underlying items. It is also not clear how to account for cash flows that are expected to vary

directly with returns on the underlying items. In addition, as for the recognition of the remaining CSM in profit or loss over the coverage period of insurance contracts, we question if a consistent application of the proposed standard may ever be possible, unless specific guidance is provided as to the manner in which the remaining CSM is recognised in profit or loss over the coverage period. We are concerned that the comparability of financial information across entities could not be ensured if the Re-ED were to be finalised without making improvements in these areas. (For specific suggestions, please refer to our comment on Questions 1, 2, 4 and 7.)

- (b) The proposed standard may give rise to an ‘accounting mismatch,’ even where there is economic matching relationship between assets and liabilities. For example, even when an entity’s asset and liability positions (including derivative contracts) are effectively matched, accounting mismatches may arise where the effect of changes in discount rates on the carrying amount of the insurance liability is recognised in other comprehensive income (OCI), and the change in the fair value of the derivative is recognised immediately in profit or loss. (Please refer to our comment on Question 4.)
 - (c) Even when each of the proposed requirements in the Re-ED is considered appropriate individually, when considered altogether, some of these requirements may make the practical application of the proposed standard excessively complex. For example, although we conceptually support the approach proposed in the Re-ED requiring that changes in estimates of future cash flows that relate to future covers and other future services be adjusted by the CSM, we wonder if this approach maintains the appropriate cost-benefit balance when applied to a great number of insurance contracts whose coverage periods are long. We feel that it would create significant practical challenges for the retention of relevant data and make accounting treatments excessively complicated. (Please refer to our comment on Questions 1 and 6.)
3. In addition, nevertheless of the fact that most of the IASB’s discussions were jointly conducted on this project with the Financial Accounting Standards Board (FASB) from 2008, we note that there still remain significant differences in core parts of the respective insurance accounting models, which includes the treatment of the CSM. We are of the view that ensuring global consistency of insurance contracts accounting is critically important in light of improving the comparability of financial statements. Accordingly, we strongly encourage both boards to continue

their efforts to reach agreement on a converged outcome.

4. Lastly, at the end of the letter we have appended an attachment which includes strongly held comments received from members of the Insurance Contract Technical Committee which are not included in the main body of this letter. The Technical Committee was established under the ASBJ in order to provide technical inputs to the ASBJ in formulating this comment letter.
5. Our responses to the specific questions in the Re-ED are provided below.

Responses to the specific questions and other comments

Question 1: Adjusting the contractual service margin

Do you agree that financial statements would provide relevant information that faithfully represents the entity's financial position and performance if differences between the current and previous estimates of the present value of future cash flows if:

- (a) differences between the current and previous estimates of the present value of future cash flows related to future coverage and other future services are added to, or deducted from, the contractual service margin, subject to the condition that the contractual service margin should not be negative; and
- (b) differences between the current and previous estimates of the present value of future cash flows that do not relate to future coverage and other future services are recognised immediately in profit or loss?

Why or why not? If not, what would you recommend and why?

(Accounting treatment relating to changes in estimates of the present value of future cash flows related to future coverage and other future services)

6. We generally support the approach proposed in the Re-ED that changes in estimates of future cash flows related to future coverage and other future services should not be immediately recognised in profit or loss, but should be adjusted (or 'unlocked') by the CSM.
7. We are of the view that the CSM should represent the 'unearned profits' of insurance contracts. Under the 'locking approach' which requires that the changes in estimates of future cash flows be recognised immediately in profit or loss, the CSM would be recognised in profit or loss over the coverage period of the insurance contract in accordance with the pattern established at initial recognition of the contract, even if the initial estimates are subsequently changed. Under this

approach, what the CSM represents would be inconsistent over the initial recognition and the subsequent periods, making it hard to explain the nature of the CSM.

8. The Re-ED explains that the unlocking approach is consistent with the measurement of contract liabilities proposed under the revised Exposure Draft, *Revenue from Contracts with Customers* issued in 2011 (“the revised Revenue ED”)¹. However, in our analysis, the following two accounting treatments are consistent with the unlocking approach.
 - (a) To adjust the CSM prospectively for changes in estimates of future cash flows. (This approach is consistent with the proposal in the Re-ED.)
 - (b) To recognise the CSM covering the entire period of an insurance contract in profit or loss reflecting the pattern that a performance obligation of the insurance contract is expected to be satisfied (in other words, in accordance with the progress towards complete satisfaction of that performance obligation.²) (This approach is consistent with paragraphs 38 and 49 of the revised Revenue ED).
9. We are of the view that under both approaches, the CSM would represent the unearned profits of the insurance contracts. During our deliberations, some stakeholders stated that approach (a) combined with the proposed requirements of adding to and deducting from the CSM the changes in estimates of future cash flows (“the adding and deducting method”) under the Re-ED, would require onerous record keeping relating to the CSM and would make the implementation excessively complex. It was also noted that under this approach profit or loss for the remaining periods might fluctuate greatly when there are changes in estimates during the period immediately before the end of the coverage period. Others noted that approach (b) which is consistent with paragraphs 38 and 49 of the revised Revenue ED would result in a greater practical burden than approach (a) to implement when combined with the adding and deducting method.

¹ Please refer to paragraph BC33 of the Re-ED.

² This approach is based on the idea that the changes in estimates of future cash flows related to future coverage and other future services would affect the profitability of the contract for the entire period. Under this approach, an entity would recognise in profit or loss of the current period the portion of profit that is considered to be attributable to current and prior periods, based on the progress towards complete satisfaction of the performance obligation of insurance contracts.

10. Based on this discussion, the question was raised from our stakeholders as to whether it would be possible to permit re-measurement of the CSM at the end of each reporting period as a practical expedient. Although this might be an application matter rather than a matter for consideration in the accounting standard itself, we think that this is nevertheless important when implementing the proposed standard. We therefore suggest that the IASB consider when and how remeasurement method is expected to produce reasonably approximate outcomes compared with the adding and deducting method as proposed in the Re-ED, and describe the effect either in the basis for conclusions or the educational material to the final standard, drawing on feedback obtained through future field work process.

(Accounting treatment relating to changes in estimates of the present value of future cash flows that do not relate to future coverage and other future services)

11. The Re-ED proposes to distinguish (i) future cash flows that relate to future coverage and other future services from (ii) those that do not relate to future coverage and other future services. It then proposes not to adjust the CSM for the latter component, but to recognise it immediately in profit or loss. We are of the view that the distinction of the future cash flows is critical to properly apply the accounting treatment for the CSM. However, in our view, the distinction between the two situations is not necessarily clear in the Re-ED, and further clarification on this distinction would be necessary.

12. For example, changes in estimates of future cash flows that do not relate to future coverage and other future services include changes in estimates of incurred claims (that is explained in paragraph B68(a) of the Re-ED). Considering that the insured event has already occurred in this situation, we think that the proposal in Re-ED to recognise the effects of changes in estimates of the incurred claims immediately in profit or loss is consistent with the treatment stipulated in paragraph 36(a) of IAS 8 *Accounting Policies, Changes in Accounting Estimates and Errors*, and is therefore appropriate.

13. Paragraph B68 of the Re-ED illustrates practical situations regarding how to distinguish future cash flows that relate to future coverage and other future services from those that do not. However, in our view the situations illustrated in the paragraph are not clear, except for the case explained in the previous paragraph. We provide further details in our comments on Question 7 in this letter.

(Patterns in which the CSM should be recognised in profit or loss)

14. Paragraph 32 of the Re-ED requires that the remaining CSM be recognised in profit or loss over the coverage period. It also requires that the CSM be recognised in profit or loss *in the systematic way that best reflects the remaining transfer of services that are provided under the contract* [Emphasis added].
15. However, the Re-ED does not provide specific guidance as to what “the systematic way that best reflects the remaining transfer of services” means. The CSM represents unearned profits for the entire remaining period of the insurance contract and the way in which it is recognised in profit and loss will have a significant impact on the financial performance of an entity. Although there are various patterns in which different services are provided under insurance contracts, making it difficult for the accounting standard to single out a definite recognition pattern, we believe that the general principle described in the Re-ED would be insufficient. This is because the proposal leaves too much leeway for entities’ discretion and different entities would select different recognition patterns, such that financial statement users may find it difficult to compare financial performance across entities.
16. Therefore, while acknowledging various types of insurance contracts, in order to ensure the comparability across entities, we propose that the IASB illustrate common factors that entities should consider when deciding the recognition pattern of the CSM (drivers for recognition). The common factors may include the following:
- The lapse of time;
 - The number of insurance contracts in effect;
 - The insured amount stipulated in insurance contracts (this may apply to the case when the insured amount would fluctuate during the coverage period); and
 - The amount of insurance in force.

Question 2: Contracts that require the entity to hold underlying items and specify a link to returns on those underlying items

If a contract requires an entity to hold underlying items and specifies a link between the payments to the policyholder and the returns on those underlying items, do you agree that financial statements would provide relevant information that faithfully represents the entity’s financial position and performance if the entity:

- (a) measures the fulfilment cash flows that are expected to vary directly with returns on underlying items by reference to the carrying amount of the underlying items?
- (b) measures the fulfilment cash flows that are not expected to vary directly with returns on underlying items, for example, fixed payments specified by the contract, options embedded in the insurance contract that are not separated and guarantees of minimum payments that are embedded in the contract and that are not separated, in accordance with the other requirements of the [draft] Standard (ie using the expected value of the full range of possible outcomes to measure insurance contracts and taking into account risk and the time value of money)?
- (c) recognises changes in the fulfilment cash flows as follows
 - (i) changes in the fulfilment cash flows that are expected to vary directly with returns on the underlying items would be recognised in profit or loss or other comprehensive income on the same basis as the recognition of changes in the value of those underlying items
 - (ii) changes in the fulfilment cash flows that are expected to vary indirectly with the returns on the underlying items would be recognised in profit or loss; and
 - (iii) changes in the fulfilment cash flows that are not expected to vary with the returns on the underlying items, including those that are expected to vary with other factors (for example, with mortality rates) and those that are fixed (for example, fixed death benefits), would be recognised in profit or loss and in other comprehensive income in accordance with the general requirements of the [draft] Standard?

Why or why not? If not, what would you recommend and why?

(General consideration for contracts that require the entity to hold underlying items and specify a link to returns on those underlying items)

17. We are of the view that the measurement bases for an asset and a liability should be determined based upon their nature or characteristics. The IASB's Discussion Paper *A Review of the Conceptual Framework for Financial Reporting* issued in July 2013 proposes that the measurement basis for a liability should be determined based on the way in which the liability is settled or fulfilled. The Re-ED proposes that for a contract that requires an entity to hold underlying items and specifies a link between the payments to the policyholder and the returns on those underlying items, the liability be measured by reference to the carrying amount of the underlying items. In our understanding, this proposed requirement seems to

presume a liability and its associated assets as a single unit of account. We consider this to be an exceptional accounting treatment, as it is uncommon under the general principle of liability measurement.

18. If a contract requires an entity to hold underlying items and it is certain that the payments that are linked to the returns on those underlying items would be distributed to the policyholders (for example, it is the case of variable insurance contracts), it is clear that there is a relationship between the cash flows of the insurance contract liability and those of the underlying items. Having considered such an economic relationship, it would be considered inappropriate if an accounting mismatch would arise from adopting different measurement bases for assets and the liabilities in light of properly presenting the financial performance of an entity. Therefore, we generally support this exceptional treatment as proposed in the Re-ED.
19. However, having considered that its exceptional nature, we are of the view that the scope of this treatment should be clearly articulated in the proposed standard. We think that the Re-ED is not sufficiently clear on this and therefore, we recommend that the IASB provide clarification in the following respects:
 - (a) The Re-ED proposes that the underlying item includes “specified assets and liabilities,” “a pool of insurance contracts,” and “the assets and liabilities of the entity as a whole.” In case of “specified assets and liabilities,” we understand that the typical examples include the case where an insurer is expected to distribute returns on the investments to its policyholders in accordance with the investment contract. In addition, as for the case when the underlying item is “a pool of insurance contracts,” we understand that the typical situation is where an insurer distributes the entire profits or surplus amounts in the pool to its policyholders. In case of the situation where the underlying item is “the assets and liabilities of the entity as a whole,” we are of the view that the applicability of the paragraph should be limited to an exceptional case, for example, where a special purpose company holds assets and liabilities. However, the Re-ED is unclear about the scope of application.
 - (b) The Re-ED proposes that the contract need to specify a link between the payments to the policyholder and the returns on those underlying items in order to meet the proposed requirement. However, the ED does not explain the extent of the link required to qualify for the proposed requirement.

(Measurement of the fulfilment cash flows that are expected to vary directly with returns on underlying items, and presentation of the effect on remeasurement)

20. As for the fulfilment cash flows that are expected to vary *directly* with returns on underlying items, there is a direct correlation between the underlying items and the insurance contracts and the economic matching relationship existing. Therefore, we support the proposal requiring that the measurement of the insurance liabilities be determined by reference to the carrying amount of the underlying items, and the changes in the measurement of the liabilities be recognised in profit or loss or OCI on the same basis as the recognition of changes in the value of those underlying items. This helps eliminate or reduce the accounting mismatch. However, when the underlying items consist of items whose measurement bases differ (this might include a case, where a pool of insurance contracts consists of real estate measured at cost under IAS 16 *Property, Plant and Equipment*, equity financial instruments measured at FV-OCI under IFRS 9 *Financial Instruments* and debt financial instruments measured at amortized cost under IFRS 9), the Re-ED is unclear about how the liability might be measured by reference to the carrying amount of the underlying assets, and how the changes in the insurance contract liability might be presented. Therefore, we recommend that the IASB clarify the measurement requirements and the accounting treatment in such situations.

(Measurement of the fulfilment cash flows that are not expected to vary directly with returns on underlying items, and presentation of the effect on remeasurement)

21. As for the fulfilment cash flows that are *not* expected to vary directly with returns on underlying items (for example, fixed payments specified by the contract), there is no direct correlation between the underlying items and insurance contracts. Considering that there is no economically matching relationship for these types of cash flows, there should be no need to provide exceptional treatment to eliminate or reduce an accounting mismatch. Therefore, for these types of cash flows, we believe it is appropriate to follow the general accounting requirements regarding insurance contracts.

22. For the fulfilment cash flows that are expected to vary *indirectly* with returns on underlying items, the characteristics of the cash flows are considered to be similar to those of option contracts. Therefore, we generally support the proposed requirements in the Re-ED requiring that the changes in insurance contract

liabilities be recognised immediately in profit or loss, consistent with the accounting requirements for derivative contracts under IFRS 9. However, in our deliberation, preparers raised the concern that decomposing cash flows would be very complex and impose a significant practical burden. Also, the question was raised as to if it would ever be appropriate to decompose the components which are not required to be separated at initial recognition.

Question 3: Presentation of insurance contract revenue and expenses

Do you agree that financial statements would provide relevant information that faithfully represents the entity's financial performance if, for all insurance contracts, an entity presents, in profit or loss, insurance contract revenue and expenses, rather than information about the changes in the components of the insurance contracts?

Why or why not? If not, what would you recommend and why?

(Presentation of insurance contract revenue)

23. Generally, we support the proposal to present volume information about insurance contract revenue and expenses because it would help users of financial statements to understand the financial performance of insurance contracts and enhance comparability of financial statements across entities.
24. We also support the proposal to present insurance contract revenue as a performance obligation of the insurance contract is satisfied, in line with the general principle described in the revised Revenue ED.
25. However, the Re-ED seems to assume that the change in the liability for the remaining coverage during the period would represent the cover and other services that would be provided during the period. This would result in insurance contract revenue being presented as the sum of incurred claims and expenses during the period. Under this approach, insurance contract revenue would increase when there is an increase in payment of claims. We do not necessarily believe that this approach would represent the pattern in which the performance obligation of the insurance contract is actually satisfied.
26. An alternative approach could be developed presuming that the performance obligation of the insurance contract is to *provide the stand ready obligation* to pay claims when insured events occur during the cover period, and to recognise insurance contract revenue as the stand ready obligation is satisfied. Under this

approach, insurance contract revenue would be presented in a manner that reflects the transfer of the remaining services specified by the contract. The concept of this approach is consistent with the pattern in which the CSM is recognised in profit or loss as proposed in paragraph 32 of the Re-ED, therefore, the insurance contract revenue would be recognised systematically over the coverage period taking into account the common factors (or drivers) as shown in paragraph 16 of this letter.

(Exclusion of investment components)

27. We generally support the proposed requirements to (i) separate the investment components of insurance contracts that are not highly interrelated with the insurance components at initial recognition and measurement, and to (ii) exclude some of the remaining investment components when presenting insurance contract revenue.
28. During our deliberation, a view was expressed that if there is a problem about the presentation of financial statements we should reconsider the recognition requirement to ensure consistency between the requirements for recognition and presentation. However, when the investment components are highly interrelated with the insurance components, separating the investment components from the remaining components would further increase the complexity and make the separation arbitrary. Therefore, if the investment components are highly interrelated with the insurance components, we believe it is appropriate to measure them in combination, consistent with the proposal in the Re-ED.
29. On the other hand, in the case of investment components for which an insurance contract requires the entity to repay a policyholder even if an insured event does not occur (such as surrender value), the essential characteristics of the investment components are similar to bank deposits. In our view, presenting the investment components as part of the insurance contract revenue is not necessarily appropriate to properly present the financial performance. Therefore, we are of the view that excluding certain types of investment components from insurance contract revenue when presenting the statement of comprehensive income would allow users to better understand the performance of insurance contracts.
30. Nevertheless, we think that the proposed definition (that is, amounts an insurance contract requires the entity to repay to a policyholder even if an insured event does not occur³) is too broad, and that even a prepayment of a premium for future

³ Please refer to Appendix A *Defined terms* of the Re-ED.

coverage might be considered as an investment component. Preparers of financial statements pointed out that this is not consistent with how insurance contracts are internally controlled and that the costs of excluding the investment component exceed the benefits of doing so. Therefore, we are of the view that the scope of the investment component which would be excluded from insurance contract revenue should be limited to a reasonable extent, so as to strike the appropriate balance of costs and associated benefits.

31. Specifically, we propose that a contract which has an investment component should be excluded in presentation only for “a contract in which an explicit account balance is separated⁴ or which has a feature similar to a deposit.” This is based upon the feedback we received from financial statement users that they typically separate components of contracts in which an explicit account balance is identified from components which have a feature similar to a deposit when analysing financial statements, because the profitability of these contracts would be seen very different from other contracts unless the investment components are separated. We suggest excluding such investment components from presentation, so as to clarify the scope of application and to strike the right balance between the benefits and associated costs.
32. In addition to the comments stated in the preceding paragraphs, we provide further comments about how to separate investment components at initial recognition and on measurement of insurance contract liabilities. Please refer to our comments in paragraph 47(c) of this letter.

Question 4: Interest expense in profit or loss

Do you agree that financial statements would provide relevant information that faithfully represents the entity’s financial performance if an entity is required to segregate the effects of the underwriting performance from the effects of the changes in the discount rates by

- (a) recognising, in profit or loss, the interest expense determined using the discount rates that applied at the date that the contract was initially recognised. For cash flows that are expected to vary directly with returns on underlying items, the entity shall update those discount rates when the entity expects any changes in those returns to affect

⁴ Please refer to the Staff Paper of the Boards meeting for November 2011, for how to identify the explicit account balance.

the amount of those cash flows; and

- (b) recognising, in other comprehensive income, the difference between
- (i) the carrying amount of the insurance contract measured using the discount rates that applied at the reporting date; and
 - (ii) the carrying amount of the insurance contract measured using the discount rates that applied at the date that the contract was initially recognised. For cash flows that are expected to vary directly with returns on underlying items, the entity shall update those discount rates when the entity expects any changes in those returns to affect the amount of those cash flows?

Why or why not? If not, what would you recommend and why?

(Presentation of the effects of the changes in the discount rates in OCI)

33. An insurance contract is often characterised as a promise by an insurer to fulfil a performance obligation to make payments according to the contractual terms over a relatively long period of time. Thus, the amount, timing and uncertainty of cash flows of insurance contracts, including the receipt of premiums and the payment of claims, are expected to fluctuate greatly in line with the changes in the environment after initial recognition. Having regard to such characteristics of insurance contracts, we are of the view that remeasuring insurance contract liabilities at current value at each reporting date is appropriate to properly reflect the financial position of insurers. However, we do not necessarily think that presenting all of the changes in the carrying amounts of insurance contract liabilities in profit or loss would be appropriate to properly present the financial performance of insurers.
34. In particular, when cash flows are not expected to vary largely (including due to the effect of changes in interest rates), the effects of changes in discount rates (which are inputs to the current measurement of insurance contract liabilities) are expected to unwind over the period in which those cash flows occur. In addition, considering the relatively long term nature of insurance contracts, the effect of changes in discount rates are expected to be large when measuring the current value of insurance contract liabilities. Therefore, presenting all of the effects of changes in discount rates immediately in profit or loss may mislead users of financial statements about the performance of underwriting and investment activities of insurers. Consequently, we believe that the proposal to recognise in profit or loss the interest expense determined using the discount rate that applied when the

contract was initially recognised, and to present the effects of changes in the discount rate in OCI is considered reasonable.

35. However, it was pointed out that the proposed requirement to present the effects of the changes in discount rates in OCI would give rise to an additional accounting mismatch. For example, if an entity were to reduce the duration mismatch between its assets and insurance contract liabilities with the use of derivative contracts (such as interest rate swaps), part of the changes in the carrying amounts of insurance contract liabilities would be presented in OCI, while derivatives contracts would be remeasured at FV-PL. In such a case an accounting mismatch would arise even when assets and liabilities are economically matched.
36. In order to address the accounting mismatch, the effects of changes in discount rates on insurance contract liabilities could be presented in profit or loss when certain conditions are met, so as to eliminate or reduce the accounting mismatch. We think that the project on macro hedge accounting has the potential to address this problem. Nevertheless, we encourage the IASB to deliberate how it can address the accounting mismatch as part of its redeliberation.

(Treatment for cash flows that are expected to vary directly with returns on underlying items)

37. We support that proposal in the Re-ED to require that the discount rate should reflect the characteristic of liabilities. We are also of the view that for cash flows that are expected to vary directly with returns on underlying items, updating the discount rate in the situation described in paragraph BC121(b) of the Re-ED is consistent with the general concept about how discount rates should be determined.
38. However, it is not clear what is meant by “cash flows that are expected to vary directly with returns on underlying items.” In addition, depending on the circumstances, updating discount rates might not be appropriate. Therefore, we believe that the IASB should endeavour to clarify the scope of this treatment through careful consideration, so as to ensure consistent application in practice.

Question 5: Effective date and transition

Do you agree that the proposed approach to transition appropriately balances comparability with verifiability?

Why or why not? If not, what do you suggest and why?

39. Considering that contractual periods of insurance contracts are often long, estimating insurance contract liabilities at initial recognition and determining the effects of changes in estimates in the subsequent periods would be considered as impracticable in most cases when simply requiring an entity to follow IAS 8 *Accounting Policies, Changes in Accounting Estimates and Errors* and requiring the retrospective application of the proposed standard. Therefore, we agree that the application of IAS 8 without modification is not appropriate.
40. However, the ‘modified retrospective approach’ as proposed in the Re-ED would still requires various estimates for the transactions conducted in past periods. Normally, a portfolio of insurance contracts consists of a myriad of contracts whose durations are long. Thus, preparers of financial statements expressed the views that the retrospective application to the previously issued contracts would impose a significant practical burden, and the cost of the retrospective application would outweigh the benefits. Therefore, consistent with our comments on Question 1 in this letter, it was suggested that the remeasurement method should be made available as a transitional arrangement to maintain the appropriate costs and benefits. The use of the remeasurement method may respond to the concerns from some financial statement preparers that the modified retrospective approach would give rise to unreasonable consequences as it requires the effects of changes in cash flows to be adjusted by the CSM, while those effects would be recognised in profit or loss if the retrospective approach were used unmodified.

Question 6: The likely effects of a Standard for insurance contracts

Considering the proposed Standard as a whole, do you think that the costs of complying with the proposed requirements are justified by the benefits that the information will provide? How are those costs and benefits affected by the proposals in Questions 1-5? How do the costs and benefits compare with any alternative approach that you propose and with the proposals in the 2010 Exposure Draft? Please describe the likely effect of the proposed Standard as a whole on

- (a) the transparency in the financial statements of the effects of insurance contracts and the comparability between financial statements of different entities that issue insurance contracts; and
- (b) the compliance costs for preparers and the costs for users of financial statements to understand the information produced, both on initial application and on an ongoing

basis

41. We have not carried out quantitative analysis as to whether costs to comply with the proposed requirements may outweigh the benefits. However, based on the feedback received from our stakeholders, it seems that when considered as a whole, the cost of complying with the proposed requirements would outweigh the resulting benefits in the following areas:
- (a) The proposed requirement of how to account for the CSM after it is initially recognised and measured (Please refer to our comment on Question 1.);
 - (b) The proposed requirement to exclude investment components (Please refer to our comment on Question 3.); and
 - (c) The transitional arrangement (Please refer to our comment on Question 5.)
42. In addition, we were not able to judge whether the cost of complying with the requirements would outweigh the benefits of the information for the following areas, because we found that the proposed requirements are not sufficiently clear.
- (a) The proposed requirement for a contract that requires an entity to hold the underlying items and specifies a link between the payments to the policyholder and the returns on those underlying items (Please refer to our comment on Questions 2 and 7); and
 - (b) The proposed requirement for cash flows that are expected to vary directly with returns on underlying items (Please refer to our comment on Questions 4 and 7.)
43. In addition, if the IASB requires an entity issuing insurance contracts to disclose every single item stipulated in the Re-ED, the appropriate balance between costs and benefits would not be maintained, making it difficult for users of financial statements to understand the financial statements due to unnecessary disclosures. Having recognised that the IASB has been working to address these concerns as part of the project to review the *Conceptual Framework for Financial Reporting* and to review IAS 1 *Presentation of Financial Statements*, it would be helpful, for example, if the IASB clarify that an entity need not disclose items that are immaterial to the entity.
44. As for specific disclosure requirements, paragraph 84 of the Re-ED proposes that if an entity uses a technique other than the confidence level technique for determining

the risk adjustment, that the entity disclose a translation of the result of the technique into a confidence level. Having considered that various techniques could be used in measuring risk adjustment, users of financial statements expressed the view that this disclosure would be useful as it would enhance the comparability of financial statements and may encourage an entity to improve its measurement techniques. On the other hand, financial statement preparers expressed strong opposition to the proposed requirement for the following reasons:

- (a) Assumptions made in using the confidence level technique such as the shape of a distribution curve, may vary depending on the types of insurance contracts being measured, and disclosing the figure using the technique that may not be suitable for particular types of contracts may be misleading to users.
- (b) For entities using a method other than a confidence level technique, the proposal would substantially require them to measure the risk adjustment based both the confidence level technique and the alternative method. This would impose a significant practical burden and the resulting benefit would not outweigh the costs.

45. We encourage the IASB to reconsider the matter, taking into account the feedback to be received through outreach with stakeholders.

Question 7: Clarity of drafting

Do you agree that the proposals are drafted clearly and reflect the decisions made by the IASB ?

If not, please describe any proposal that is not clear. How would you clarify it ?

46. We think that the IASB's intention is not clear in the Re-ED in the following respects:

- (a) **Definition of 'underlying items'** (Paragraphs 33, 60 and B68 of the Re-ED):

The term "underlying items" is used in paragraph 33 of the Re-ED (relating to "a link between the payments to the policyholder and the returns on those underlying items"), paragraph 60(h) (relating to "cash flows that are expected to vary directly with returns on underlying items") and paragraph B68(d) and (e) in the Re-ED. This term is critical for properly applying the accounting treatment as proposed by the Re-ED, but the actual definition of the term is unclear. We also provide our comments

in paragraphs 19 and 38 of this letter, where we suggest related clarification.

(b) **Distinction between items that would be adjusted by the CSM and those that would be recognised immediately in profit or loss** (Paragraph B68 of the Re-ED)

Paragraph B68(b) through (e) illustrates examples to be considered when deciding which items should be adjusted by the CSM or be recognised immediately in profit or loss. However, the proposed guidance is difficult to understand. For example, although paragraph B68(c) states that the delay or acceleration of investments components should be recognised immediately in profit or loss, what is intended by this example is unclear. Paragraphs B68 (d) and (e) refer to “underlying items,” but the scope of the underlying items is not sufficiently clear, including whether a participating contract is included in the scope. Since the above distinctions are critical in the application of accounting for insurance contracts, enhanced explanation in the application guidance or further explanation in the basis for conclusions is necessary.

(c) **Items to be discounted** (Paragraph 64 of the Re-ED)

Paragraph 64 of the Re-ED proposes that the difference between the ‘carrying amounts of insurance contract liabilities’ measured using two different discount rates be presented in OCI. However, considering that paragraph 25 of the Re-ED proposes that estimates of future cash flows be discounted for the time value of money, we believe that the items to which discount rates should be applied are ‘estimates of future cash flows’ rather than the ‘carrying amount of insurance contract liabilities.’ We believe that paragraph 64 should be amended so that these paragraphs are consistent.

(d) **Accounting treatment of the CSM** (Paragraph 30 of the Re-ED)

It is not clear whether the CSM should be recognised again, when there are favourable changes in estimates of future cash flows, after the CSM is reduced to nil. We believe that clarification is necessary in this respect.

Other Comments

47. In addition to our comments on Questions 1 through 7, we believe that improvements would be necessary in the following areas:

(a) **Discount rates that should be applied to recognise interest expenses on liabilities for incurred claims when the premium-allocation approach is used** (Paragraph 60 (h) of the Re-ED)

The Re-ED proposes that an entity use the discount rate applied when the contract was initially recognised, to recognise interest expenses on the liabilities for incurred claims. However, considering that the liability for incurred claims is recognised when insured events occur, we believe that the discount rate applicable when an insured event occurs should be the rate that is used.

(b) **Measurement of reinsurance contracts held when the underlying contracts are onerous** (Paragraph 41 of the Re-ED)

In accordance with the proposed requirements of the Re-ED, an accounting mismatch would arise when reinsurance contracts are entered into, where the underlying contracts are onerous. This is because the initial losses that arise from underlying insurance contracts are recognised in profit or loss, while the initial gains that arise from the corresponding reinsurance contracts that are ceded are recognised in the CSM. In practice, the corresponding reinsurance contracts ceded are usually entered into at the same time as the underlying insurance contracts are issued, creating an accounting mismatch due to the different accounting treatments. This would not be appropriate so as to properly present financial performance of insurers. Therefore, in light of eliminating accounting mismatches, we are of the view that the initial gain that arises from reinsurance contracts should be recognised immediately in profit or loss.

(c) **Separation of investment components** (Paragraphs 10(b) and B32 of the Re-ED)

The Re-ED proposes that the investment components that are included in the insurance contracts be separated from the host insurance contract and be accounted for in accordance with IFRS 9, if the investment component is distinct. Paragraph B31 of the Re-ED states that the investment

component is not distinct if the investment component and the insurance component are highly interrelated. Paragraph B32 of the Re-ED explains that two components are *highly interrelated* if either of the following conditions is met.

- (i) The entity is unable to measure the one without considering the other;
or
- (ii) The policyholder is unable to benefit from one component unless the other is also present (including the case in which the lapse or the maturity of one component in a contract causes the lapse or maturity of the other).

We are of the view that meeting either of the two conditions above would not necessarily illustrate the situations where investment components and insurance components are so highly related that the two should be accounted for jointly. For example, in Japan there is a practice that insurers underwrite loans to policyholders as part of their operation. Normally, an insurer underwrites loans at the amount not exceeding the surrender value of the insurance contract so that it can ensure the repayment of the loan through offsetting the surrender value when the underlying insurance contract lapses or expires. Under the Re-ED, the condition (ii) of paragraph B32 would be met for such a lending arrangement and therefore, the Re-ED proposes that this lending arrangement be accounted for jointly with the host insurance contract.

However, the pricing of the insurance contract is determined independent of the lending arrangement, and insurers do not provide concessions on interest rates to borrowers in exchange for insurance contracts. Thus, such lending arrangements can be considered as simply a lending arrangement to policy holders with the surrender value as collateral. Therefore, although the loan could be repaid when the insurance contract expires or lapses, we think that such lending arrangement should be separately accounted for in accordance with IFRS 9 rather than treating them jointly so as to better reflect the economic reality. We therefore propose that the IASB clarify the reason why the two components should be accounted for jointly when the investment component and the insurance component are *highly interrelated*. We also propose to change the criterion (ii) of paragraph B32 of the Re-ED to a supplemental factor when assessing the

criterion (i) of the paragraph.

We hope that our comments will positively contribute to the future deliberations on the project.

Yours sincerely,



Takehiro Arai

Vice Chairman of the Accounting Standards Board of Japan and
Chairman of the Insurance Contract Technical Committee

(Attachment) Other comments that were expressed by the members of the Insurance Contract Technical Committee

We established the Insurance Contract Technical Committee to deliberate proposals in the Re-ED. The Technical Committee consists of Japanese stakeholders including users, preparers and auditors. Various views were expressed by the Technical Committee members, and not all comments are included in the letter. The following views were strongly expressed by members of the Technical Committee, but are not included in the main body of the letter because they are not consistent with the proposals in this letter. Nevertheless, we decided to include the following comments as an attachment to the letter because they are considered to be useful for the IASB's future deliberation. We note that both of them relate to the proposed requirements that future cash flows be recognised as an adjustment to in the CSM (liability), while the effects of changes in discount rates be recognised in OCI.

- The proposal in the Re-ED would require that the effects of changes in estimates of future cash flows (such as, gains or losses relating to changes in estimates of insurance-related expenses or of mortality rates) would be recognised in the CSM (that is, in the liability section), while the effects of changes in discount rates would be recognised in OCI (that is, in the equity section.) During our deliberations, it was suggested that the cumulative effects of these changes would have enormous impact on the financial position of insurance companies at the time of transition. Where the interest rates at the time of transition are significantly lower than the level at their initial recognition (such as the case in Japan), there are cases where the cumulative negative effects of the changes in discount rates are compensated by the positive effects on gains or losses relating to changes in estimates of insurance-related expenses or of mortality rates. For insurers holding a large number of such insurance contracts, the proposed requirements would have huge impacts on the equity section of the statement of financial position. Therefore, the need for careful consideration was suggested, including the aspect of transitional arrangements.
- The proposal in the Re-ED requires that the effects of changes in estimates of future cash flows be recognised in the CSM (liabilities), while the effects of changes in discount rates are recognised in OCI. In the case of interest sensitive contracts, their cancellation rates would fluctuate with changes in interest rates. It was pointed out that the effects of changes in cash flows resulted from changes in interest rates and the effects of changes in discount rates are often monitored jointly in as part of

interest rate risk management practice. Some stakeholders expressed their views that in such a situation, the effects of changes in the cash flows and the effects of changes in discount rates should be presented jointly so that an entity's financial performance would be properly presented.

2013年11月1日

米国財務会計基準審議会 御中

会計基準更新書案「保険契約（トピック 834）」に対するコメント

当委員会は、保険契約プロジェクトにおける米国財務会計基準審議会（FASB）の長年にわたる努力に敬意を表するとともに、会計基準更新書案「保険契約（トピック 834）」（以下「本公開草案」という。）にコメントする機会を歓迎する。

全般的なコメント

1. 我々は、保険契約に係る財務報告の要求事項を改善し、単純化させ、拡充させるとともに、投資者の意思決定に有用となる情報を提供するという本公開草案の目的を支持している。
2. 2008年以來、FASBと国際会計基準審議会（IASB）は保険契約の会計基準について共同で審議を行ってきたが、IASBが2013年6月に公表した改訂公開草案「保険契約」（以下「IASB改訂公開草案」という。）における保険契約の会計モデルと本公開草案における保険契約の会計モデルは、その根幹に係る部分で、依然として一致していない。我々は、保険契約に関する財務情報についてグローバルな比較可能性を確保することは重要と考えており、保険契約に関する会計基準が高品質でグローバルに共通したものとなるよう、IASBとFASB（以下「両審議会」という。）が会計モデルの共通化に向けた取組みを引き続き行うことを期待する。
3. このため、本コメント・レターの作成にあたって、我々は、保険会計モデルの中核に関する論点及び両審議会の提案になお大きな相違が存在する論点の一部に焦点をあてている。また、我が国関係者からのフィードバックを踏まえ、我が国で米国会計基準を適用している企業への影響が大きいと考えられる論点についても併せてコメントをしている。本コメント・レターにおいて、我々がコメントを提供するのは、具体的には、次の点である。
 - (1) 本会計基準更新書案の適用範囲（本公開草案 質問1）
 - (2) キャッシュ・フローの見積りの変更の取扱い（本公開草案 質問13）
 - (3) 割引率の変動による影響の表示（本公開草案 質問16、19）
 - (4) 保険契約収益の表示（本公開草案 質問31、32）
4. 我々は、とりわけ、次の点について重要と考えており、再審議の過程において慎重

な検討を期待している。

- (1) 本公開草案では、将来キャッシュ・フローの見積りの変更が履行キャッシュ・フローの測定に与える影響を直ちに純損益に認識することが提案されているが、我々は当該提案に同意しない。我々は、将来のカバー及び他の将来のサービスに関連する将来キャッシュ・フローの見積りの変更の影響についてはマージンで調整し、契約期間にわたって当該変動の影響を認識することを提案する。
 - (2) 本公開草案では、割引率の変動に起因する履行キャッシュ・フローの変動額をその他の包括利益（OCI）に表示することが提案されている。しかし、経済的に対応関係が図られている状況において、当該提案を適用すると、結果として、会計上のミスマッチが生じる可能性がある。例えば、企業の資産及び負債のポジション（デリバティブ契約を含む）が効果的に対応しているにも関わらず、会計上のミスマッチが生じる可能性がある点について懸念される。
5. 本公開草案における個別の質問に対する我々のコメントは、次のとおりである。

各質問に対するコメント

1. 範囲（金融保証契約も対象）(Q1)

質問1：(全員)

本ガイダンス案の範囲及び範囲除外に、非保険会社が引き受ける契約への適用も含め、同意するか。同意しない場合、どの種類の保険又は取引を含めるべきか、又は範囲から除外すべきか。理由は何か。

6. 我々は、本公開草案で提案されている範囲について概ね同意する。しかし、本公開草案では、通常、保険会社が引き受ける保険契約以外にも、会計基準更新書「金融サービス保険（トピック 944）」で定められている金融保証保険契約¹にも本公開草案で示されている会計処理を適用することが提案されており、こうした契約に対して、本公開草案における要求事項を一律に適用することに同意しない。
7. 我々は、本公開草案で提案されている測定方法によって、保険契約から生じるキャッシュ・フローに関するリスクと不確実性をより良く反映することになると一般的に考えている。また、本公開草案が適用対象としている金融保証保険契約は、保険契約と性質が類似するものと考えられる。このため、保険会社に典型的にみられるように、企業が金融保証保険契約と保険契約をともに発行している場合には、両者に同様の要求事項を適用することは適切と考えている。
8. しかし、金融保証保険契約は、必ずしもこのような状況においてのみ提供されるものではない。また、同契約は他の適切な会計基準が適用される信用供与契約とも経済的に類似している。例えば、銀行にとっては、債務者に対して直接貸出金を提供するのと、同債務者が第三者から行う資金調達に対して債務保証を提供する契約とでは、債務者への信用リスクを負担しているという点で経済実態は類似している。
9. このため、我々は、金融保証保険契約がこうした他の信用供与契約とともに取引されているような状況においては、両者に同じ会計処理を適用した方が、企業の経済実態をより適切に反映することになると考えている。一方、本公開草案で提案されている会計モデルが極めて複雑なものであることを踏まえると、我々は、財務諸表作成者が本会計基準更新書案を理解し、適切に運用することは過剰な負担を伴うものと考えている。したがって、他の基準の適用によって経済実態をより適正に反映できる状況において、本会計基準更新書案の適用を要求することは、費用対効果のバランスが維持されないと考えている。

¹ 金融保証保険契約とは、債務不履行が生じた場合に財務損失から生じる金融債務の保有者に対してプロテクションを提供する保険会社によって発行される契約である（会計基準書「金融サービス保険（トピック 944）」第 20-20 項 用語集）。

10. このような点を踏まえ、我々は、IASB 改訂公開草案における提案と同様に、企業が過去において当該契約について保険契約に該当すると明示的に宣言をし、保険契約に適用される会計処理を使用している場合を除き、金融保証保険契約について、本会計基準更新書案によらず、他の適切な会計基準の適用を要求することを提案する。

II. キャッシュ・フローの見積りの変更の取扱い（質問 13）

質問 13：

本更新書案におけるキャッシュ・フローの見積りの変更（割引率の変更から生じる負債の変動の影響を除く）を報告期間の純利益に認識するというアプローチに同意するか。同意しない場合、何を提案し、理由は何か。

11. 我々は、キャッシュ・フローの見積りの変更（割引率の変更から生じる負債の変動の影響を除く）のすべてについて報告期間の純損益に直ちに認識することに同意しない。将来のカバー及び他の将来のサービスに関連する将来キャッシュ・フローの見積りの変更をマージンで調整し、将来の契約期間にわたって当該変動の影響を認識すべきと考えている²。
12. 我々は、マージンは、保険契約の未稼得利益を表すべきものと考えており、将来のカバー及び他の将来のサービスに関連する将来キャッシュ・フローの見積りの変更は、マージンで調整すべきと考えている。これによって、我々は、財務諸表利用者が保険契約から生じる利益に関する有用な情報を入手できることになると考えている。
13. 他方、本公開草案では、保険契約の当初認識時点において初日の利益を認識させないようにマージンを認識するとともに、将来キャッシュ・フローの見積りの変更を直ちに純損益に認識する方法（ロック法）に従って、将来のカバー及び他の将来のサービスに関連する将来キャッシュ・フローの見積りが当初認識・測定後に変更された場合、マージン残高は変更されず、当初予定したリスクからの解放パターンに応じて純損益に認識されることになる。当該方法によると、保険契約の当初認識時点における予想稼得利益はその後の期間に定期的に配分されるとともに、見積りに変更があった時点で当該見積りの変更の影響が純損益に反映されることになる。こ

² 我々の分析では、アンロック法に基づく会計処理を行う場合、次の2つの方法があると考えている。

- (1) 将来キャッシュ・フローの見積りの変更をマージンで将来に向かって調整する方法（IASB 改訂公開草案で提案されている方法）
- (2) 契約期間にわたって見込まれるマージンを、保険契約に関する履行義務が充足された程度の見積り（進捗率）に従って純損益に認識する方法（FASB 会計基準更新書案「収益認識（トピック 605）：顧客との契約から生じる収益」第 38 項及び第 49 項と整合的な方法）

うした取扱いは、当初の見積りに基づいたマージンの解放金額（比較的安定的な損益）と事後における見積りの変更の影響（変動可能性の高い損益）の双方を包括利益計算書において表示することを通じて、より透明な情報を表示することに寄与する可能性がある。

14. しかし、我々は、当該方法によると、マージンの残高は最新の見積りに基づいた未稼得利益を表さなくなる点を懸念している。当該方法によると、当初認識・測定時点と事後測定時点とで、マージン残高が表象する内容が整合的でなくなるため、我々は、その性格について説得的な説明が困難と考えている。

III. 割引率の変更による影響の表示 (Q16、19)

質問 16 : (全員)

割引率の変更による履行キャッシュ・フローの現在価値の変動をその他の包括利益に認識することで、引受に係る業績の影響を割引率の変更の影響（それは時の経過とともに振り戻される）から分離することに同意するか。同意しない場合、割引率の変更の影響は純利益に表示されるべきと考えるか。その理由を述べよ。

質問 19 : (作成者及び監査人)

利息費用は、一般的に契約ポートフォリオが最初に認識された日に決定された割引率に基づかなければならないことに同意するか。その理由は何か。同意しない場合、その理由は何か。同意しない場合、何を提案するか。

15. 保険契約は、保険者が比較的長期にわたって契約に基づく支払いの履行を約束するものであり、当初認識後の状況の変化によって保険料の受取や保険金の支払いのキャッシュ・フローの金額・時期・不確実性が大きく変化する。このような保険契約の性質を踏まえ、我々は、当該キャッシュ・フローを報告日時点における現在価値ベースで再測定することは保険者の財政状態を表示する観点から適切と考えている。しかし、履行キャッシュ・フローの変更額のすべてを純損益に表示することは財務業績の適正表示の観点から適切とは必ずしも考えない。
16. とりわけ、保険契約に関するキャッシュ・フローが金利水準の変動による影響を含めて大きく変化しない場合には、現在価値計算を行う際のインプットである割引率の変動による影響額はキャッシュ・フローが発生するまでの期間にわたって自動的に巻き戻ることになる。また、保険契約が比較的長期にわたる性質を有することを踏まえると、割引率の変動によって、報告日時点における履行キャッシュ・フローは大きく変動することが予想される。このため、割引率の変動による影響額のすべてを直ちに純損益に認識することは、保険会社の引受業務や投資業務の成果について、財務諸表利用者を誤解させることになるという指摘がある。したがって、当初

認識時に適用された割引率を用いて測定された金利費用を純損益に認識するとともに、割引率の変動の影響を OCI に表示する提案については、一定の合理性があるものと考えられる。

17. しかし、割引率の変動の影響を OCI に表示することによって、新たな会計上のミスマッチが創出されるとの指摘がある。例えば、企業の ALM 管理において、保有する資産と保険契約負債とのデュレーションのミスマッチについて金利スワップ等を用いて縮小させようとする場合、デリバティブ契約が FV-PL で測定されて評価差額が純損益に表示される一方、履行キャッシュ・フローの再測定差額の一部が OCI に表示されることになる。このような場合、経済的には資産と負債との間で対応関係が図られているにも関わらず、会計上のミスマッチが生じてしまうことになる。
18. この点に対処するためには、一定の状況が満たされる場合、割引率の変動に起因する履行キャッシュ・フローの再測定差額を純損益に表示することによって、会計上のミスマッチを削減又は解消することが考えられる。再審議のプロセスにおいて、会計上のミスマッチへの対応について十分な検討を行うことを期待する。

IV. 保険契約収益の表示（質問 31、32）

質問 31：（全員）

すべての保険契約について、純利益に、マージンの変動に関する情報（すなわち、正味の利益）のみではなく、企業が保険契約収益と発生費用を表示する場合、財務諸表利用者は企業の財政状態及び業績を忠実に表現する目的適合性のある情報を入手することになるということに同意するか。同意しない場合、その理由は何か。

質問 32：（全員）

すべての保険契約について、保険事故の発生の有無に関わらず保険契約者又はその受益者に企業が支払いを行う義務がある受領金額を収益から除き、当該金額に対応する払戻を費用から除かなければならないということに同意するか。同意しない場合、何を提案するか。その見解が契約の種類によって異なるかどうかを明記せよ。

（保険契約収益の表示）

19. 我々は、財務諸表利用者による保険契約に関する財務業績の理解を促すとともに、財務諸表の企業間の比較可能性を高める観点から、保険契約収益及び費用の総額を表示する提案を概ね支持する。
20. また、我々は、保険契約収益について、会計基準書「収益基準（トピック 606）」で示されている一般原則の考え方にに基づき、保険契約から生じる履行義務が充足される期間において保険契約収益を表示する考え方を支持する。

21. しかし、本公開草案では、報告期間中の残存カバーに係る負債の変動が、企業が当該期間中に提供したカバー又は他のサービスを表すとしており、結果として、当該期間中の発生保険金及び費用に対応する収益が保険契約収益として表示されることになる。このため、本公開草案で提案されている方法によると、保険金支払額の増加に比例して保険契約収益がより多く表示されることになる。我々は、このような収益の表示方法は保険契約に基づく履行義務の充足パターンを適切に表示しているとは必ずしもいえないと考えている。
22. この点、代替的な考え方の1つとして、保険契約に係る履行義務の提供を、カバー期間中の保険事故に対して保険金の支払いを行う待機義務の提供であると捉えたうえで、待機義務の提供に基づき保険契約収益を表示する方法が考えられる。当該考え方に従うと、保険契約収益は契約に従って提供されるサービスの残りの移転を反映する方法によって表示されることになる。当該考え方は、IASB 改訂公開草案の第32項で提案されている契約上のサービス・マージンの認識パターンと整合的であるため、これに従うと、保険契約収益を保険期間にわたって規則的に認識することになる。

(見積返還金額の除外)

23. 我々は、保険契約負債の当初認識・測定時点において、保険要素から区分できる投資要素を分離した上で、認識上は分離されていない投資要素（見積返還金額）について、表示上は除外するという考え方を基本的に支持する。
24. 我々の審議においては、仮に財務諸表の表示のあり方に問題があるのであれば、認識上の取扱いについて再検討を行い、認識上の取扱いと表示上の取扱いを整合させるべきという見解も示された。しかし、投資要素と保険要素が区分できない場合、投資要素を分離した上で測定することは複雑性を過度に高めることになるほか、その方法も裁量的になると考えられる。このため、両者が区分できない場合には、本公開草案の要求事項に示されているように、投資要素と保険要素を合わせた形で認識・測定することが適切と考えられる。
25. 他方、例えば、保険契約に含まれる解約返戻金のように、たとえ保険事故が発生しなかった場合でも保険者が保険契約者に返済することを保険契約が要求する見積返還金額は、銀行における預金と類似の性質を有すると考えられるため、これを保険契約収益に含めて表示することは財務業績の表示の観点から必ずしも適切でないと考えられる。このため、我々は、包括利益計算書の表示上、一定の見積返還金額を除外して表示する取扱いは、財務諸表利用者による保険契約に係る財務業績の理解に資するものと考えている。
26. 但し、本公開草案で示されている見積返還金額の定義（保険事故の発生の有無にか

かわらず、企業が保険契約者または受益者に払い戻しを要求される保険契約の構成要素の見積り金額³⁾によると対象範囲が過度に広くなり、将来のカバーに対する保険料の前払部分まで見積返還金額に含まれ得ると考えられる。この点について、財務諸表作成者からは、こうした方法は保険会社内での管理方法と整合的でないほか、見積返還金額の除外に必要な実務上の費用が便益に見合わないのではないかという指摘がなされている。このため、表示上で除外すべき見積返還金額については、費用対効果に留意しつつ、合理的な範囲に限定すべきと考えている。

27. 我々は、表示上で除外すべき見積返還金額が含まれる契約を「保険契約者に係る勘定残高が明示的に区分されている契約及び貯蓄性が高い契約」とすることを提案する。これは、保険契約を発行する企業の財務業績の分析において、保険契約者に係る勘定残高が明示的に区分されている契約⁴⁾や貯蓄性が高い契約は他の保険契約と収益性が異なるために区分して評価しているという財務諸表利用者からのフィードバックを踏まえたものである。我々は、対象範囲の明確化と費用対効果のバランスの観点から、これらの契約に含まれる見積返還金額を表示上は除外することが適切と考えている。

以 上

³⁾ 本公開草案の用語集を参照

⁴⁾ 明示的な勘定残高の識別については、両審議会による2011年11月のスタッフ・ペーパーに記載されている提案を参考にすることが可能と考えられる。

November 1, 2013

Technical Director
File Reference No.2013-290
The Financial Accounting Standards Board
401 Merritt 7
P.O. Box 5116
Norwalk, CT 06856-6116

Dear Sir or Madame,

Comment on the Proposed Accounting Standards Update—Insurance Contracts
(Topic 834)

The Accounting Standards Board of Japan (“ASBJ” or “we”) appreciates the many years of effort the Financial Accounting Standards Board (FASB) has put into the Insurance Contract project, and welcomes this opportunity to provide comments on the proposed Accounting Standards Update, *Insurance Contracts (Topic 834)* (the “ED”).

General Comments

1. We support the objective of the ED to improve, simplify and enhance the financial reporting requirements for insurance contracts, thereby providing investors with decision-useful information.
2. Most of the FASB’s discussions on the insurance contract models were jointly conducted with the International Accounting Standards Board (IASB) from 2008. However, we note that differences still remain between core parts of the insurance accounting models presented in the FASB’s ED and in the IASB’s second Exposure Draft *Insurance Contracts* issued in June 2013 (the “IASB’s Re-ED”). We are of the view that global consistency in insurance contract accounting is critically important for improving the comparability of financial statements. Accordingly, we strongly encourage both boards to continue their efforts to reach agreement on a converged outcome.
3. Therefore, in this comment letter, we focus on issues that relate to the core parts of the insurance accounting model as well as selected issues where differences still remain between the ED and the IASB’s Re-ED. In addition, based on the feedback received from our stakeholders, we have provided our comments on areas where

there will be a large impact on Japanese entities preparing consolidated financial statements in accordance with US GAAP. Specifically, we provide comments on the following areas:

- (a) Scope of the ED (Question 1 of the ED):
 - (b) Treatment of the changes in estimates of cash flows (Question 13 of the ED):
 - (c) Presentation of the effects of changes in discount rates (Questions 16 and 19 of the ED); and
 - (d) Presentation of insurance contracts revenue (Questions 31 and 32 of the ED).
4. Within the above four areas, we believe the following matters are highly important, and we encourage the FASB to carefully consider them in its redeliberation process.
- (a) We do not agree with the proposal in the ED that the effects of changes in estimates of future cash flows on the fulfillment cash flows should be immediately recognized in net income. Instead, we suggest that the effects of changes in estimates of future cash flows related to future coverage and other future services should be adjusted (or unlocked) by the margin and recognized in net income over the contract period.
 - (b) The ED proposes that changes in the fulfillment cash flows due to changes in the discount rate should be recognized in other comprehensive income (OCI). However, an accounting mismatch may arise as a result of application of this requirement, even when there is an economically matching relationship. For example, we are concerned that an accounting mismatch may arise, even when an entity's asset and liability positions (including derivative contracts) are effectively matched.
5. Our responses to the specific questions in the ED are provided below.

Responses to the specific questions and other comments

I Scope of this ED (Question 1 of the ED)

Question 1: Questions for All Respondents

Do you agree with the scope and scope exceptions of this proposed guidance, including its applicability to contracts written by noninsurance entities? If not, what types of contracts or transactions also should be included or excluded from the scope and why?

6. We generally agree with the scope proposed in the ED. However, the ED proposes that the accounting requirements specified in the ED be applied to financial guarantee insurance contracts¹ as defined by the Accounting Standards Codification *Financial Services – Insurance* (Topic 944), as well as to insurance contracts issued by insurance entities. We do not agree with the proposal that the requirements in the ED be applied to all financial guarantee insurance contracts.
7. We generally believe that the measurement requirements proposed in the ED would better reflect the risks and uncertainties of cash flows arising from insurance contracts. In addition, financial guarantee insurance contracts are considered to have similar characteristics to insurance contracts. Therefore, when an entity issues both insurance contracts and financial guarantee insurance contracts (that is typically the case for insurance entities), we agree that it is appropriate to apply the same accounting requirement to both types of contracts.
8. However, there are other situations where financial guarantee insurance contracts are issued and their economic characteristics are often similar to transactions where an entity extends credit exposures (in that case, other accounting requirements are applicable.) For example, economic characteristics are similar whether a bank underwrites a loan to a borrower directly or issues a financial guarantee insurance contract to the same party as part of the funding arrangement from the third party, because the bank nevertheless bears the credit risk of the borrower in both cases.
9. In such a situation, we believe that the economic reality of the entity would be better represented if the same accounting requirements were required for both contracts. Simultaneously, considering the complexities of the accounting model

¹ Financial guarantee insurance contract is “a contract issued by an insurance entity that provides protection to the holder of a financial obligation from a financial loss in the event of a default.”(Paragraph 20-20 of Accounting Standards Codification *Financial Services-Insurance* Topic 944)

proposed in the ED, it would be highly challenging for preparers of financial statements to properly understand and apply all the proposed requirements of the ED. Therefore, where there are other accounting pronouncements that can better reflect the economic reality of an entity, we believe that the application of the proposed requirements in the ED would not be justified from a cost benefit perspective.

10. Therefore, in line with the proposal in the IASB's Re-ED, we suggest requiring an entity to follow other applicable accounting pronouncements when accounting for financial guarantee insurance contracts unless an entity has previously asserted explicitly that it regards such contracts as insurance contracts and has applied the accounting requirements for insurance contracts to the contracts.

II Treatment of the changes in estimates in cash flows (Question 13 of the ED)

Question 13 : Questions for All Respondents

Do you agree with the approach in this proposed Update to recognize changes in estimates of cash flows (other than the effect of changes in the liability arising from changes in the discount rates) in net income in the reporting period? If not, what do you recommend and why?

11. We do not agree with a proposal in the ED that changes in estimates of cash flows (other than the effect of changes in the liability arising from changes in the discount rates) be recognized immediately in net income in the reporting period. Instead, we are of the view that the changes in estimates of future cash flows related to future coverage and other future services should be adjusted (or unlocked) by the margin² and should be recognized in net income over the future contract period.
12. We believe that the margin should represent the unearned profits of insurance contracts, and therefore that the changes in estimates of future cash flows related to future coverage and other future services should be adjusted by the margin. This, in

² In our analysis, the following two accounting treatments would be considered under the unlocking approach.

- (a) To adjust the margin prospectively for changes in estimates of future cash flows. (This approach is consistent with the proposal in the IASB's Re-ED.)
- (b) To recognize the margin covering the entire period of an contract in net income reflecting the pattern of how a performance obligation of the insurance contract is expected to be satisfied (in other words, in accordance with the progress towards complete satisfaction of that performance obligation) (This approach is consistent with paragraph 38 and 49 of the Accounting Standard Update Revenue Recognition Topic 605.)

our view, would provide users of financial statements with useful information on profits generated from insurance contracts.

13. In contrast, the proposal of the ED would require that the margin be recorded in order not to recognize a day one gain on initial recognition of insurance contracts, and that the effects of changes in future cash flow be immediately recognized in net income. The margin would not be adjusted (locked) for changes in estimates of future cash flows related to future coverage and other future services. Instead, the margin would be recognized in net income as an entity is released from exposure to risks. Under this approach, the profit estimated at initial recognition would systematically be allocated over the period, while the effects of changes in estimates would immediately be reflected in net income in the period of the change. This might provide more transparent information by showing both the release from the margin estimated at the initial recognition (relatively stable profits) and the effects of subsequent changes in estimates (volatile profits) in the statement of comprehensive income.
14. However, we have concerns that the margin balance would no longer represent unearned profits based on the latest estimates under this approach. We believe that if what the margin represents at initial recognition were inconsistent with that at subsequent periods, it would be difficult to explain the nature of the margin.

III Presentation of the effects of changes in discount rates (Questions 16 and 19 of the ED)

Question 16: Question for all Respondents

Do you agree that an entity should segregate the effects of underwriting performance from the effects of changes in discount rates (which would reverse over time) by recognizing changes in the present value of the fulfillment cash flows due to changes in the discount rates in other comprehensive income? If not, do you think that the effect of changes in the discount rates should be presented in net income? Please explain your reasoning.

Question 19: Question for all Respondents

Do you agree that interest expense generally should be based on the discount rates determined at the date the portfolio of contracts was initially recognized? Why or why not? If not, what do you recommend?

15. An insurance contract is often characterized as a promise by an insurer to fulfill a performance obligation to make payments according to the contractual terms over a relatively long period of time. Thus, the amount, timing and uncertainty of cash flows of insurance contracts, including the receipt of the premiums and the payment of claims, are expected to fluctuate greatly in line with the changes in the environment after initial recognition. Having regard to such characteristics of insurance contracts, we are of the view that remeasuring those cash flows at current value at each reporting date is appropriate to properly reflect the financial position of insurers. However, we do not necessarily think that presenting all of the changes in the fulfillment cash flows in net income would properly present the financial performance of insurers.
16. In particular, when cash flows are not expected to vary largely (including due to the effect of changes in interest rates), the effects of changes in discount rates (which are inputs to the measurement of fulfillment cash flows) are expected to unwind over the period in which those cash flows occur. In addition, considering the relatively long term nature of insurance contracts, the effects of changes in discount rates are expected to be large when measuring the fulfillment cash flows. Therefore, presenting all of the effects of changes in discount rates immediately in net income may mislead users of financial statements about the performance of underwriting and investment activities of insurers. Consequently, we believe that the proposal to recognize in net income the interest expense determined using the discount rate that applied when the contract was initially recognized, and to present the effects of changes in the discount rate in OCI is a reasonable approach.
17. However, it was pointed out that the proposed requirement to present the effects of the changes in discount rates in OCI would give rise to an additional accounting mismatch. For example, if an entity were to reduce the duration mismatch between its assets and insurance contract liabilities with the use of derivative contracts (such as interest rate swaps), part of the change in carrying amounts of the fulfillment cash flows would be presented in OCI, while derivatives contracts would be remeasured at FV-NI. In such a case, an accounting mismatch would arise even when assets and liabilities are economically matched.
18. In order to address the accounting mismatch, the effects of changes in discount rates on fulfillment cash flows could be presented in net income when certain conditions are met, so as to eliminate or reduce the accounting mismatch. We encourage the FASB to debate how it can address the accounting mismatch as part

of its redeliberation.

IV Presentation of insurance contracts revenue (Questions 31 and 32 of the ED)

Question 31: Question for all Respondents

Do you agree that users of financial statements would obtain relevant information that faithfully represents the entity's financial position and performance if, in net income, for all insurance contracts, an entity presents insurance contract revenue and incurred expenses, rather than only information about changes in margins (that is, the net profit)? If not, why not?

Question 32: Question for all Respondents

Do you agree that, for all contracts, revenue should exclude any amounts received that an entity is obligated to pay to policyholders or their beneficiaries regardless of whether an insured event occurs and that expenses should exclude the corresponding repayment of those amounts? If not, what do you recommend? Please specify whether your view depends on the type of contract.

(Presentation of insurance contract revenue)

19. Generally, we support the proposal to present volume information about insurance contract revenue and expenses because it would help users of financial statements to understand the financial performance of insurance contracts and enhance comparability of financial statements across entities.
20. We also support the proposal to present insurance contract revenue as the performance obligation of the insurance contract is satisfied, in line with the general principle described in the proposed Accounting Standards Update *Revenue recognition* Topic 606.
21. However, the ED seems to assume that the change in the liability for the remaining coverage during the period would represent the cover and other services that would be provided during the period. This would result in insurance contract revenue being presented as the sum of incurred claims and expenses during the period. Under this approach, insurance contract revenue would increase when there is an increase in payment of claims. We do not necessarily believe that this approach would represent the pattern in which the performance obligation of the insurance contract is actually satisfied.
22. An alternative approach could be developed presuming that the performance obligation of the insurance contract is to *provide the stand ready obligation* to pay

claims when insured events occur during the coverage period, and to recognize insurance contract revenue as that stand ready obligation is satisfied. Under this approach, insurance contract revenue would be presented in a manner that reflects the transfer of the remaining services specified by the contract. The concept of this approach is consistent with the pattern in which the margin is recognized in net income as proposed in paragraph 32 of the IASB's Re-ED, and therefore the insurance contract revenue would be recognized systematically over the coverage period.

(Exclusion of estimated returnable amounts)

23. We generally support the proposed requirements to (i) separate the investment components of insurance contracts that are distinct at initial recognition and measurement, and to (ii) exclude some of the remaining investment components (estimated returnable amounts) when presenting insurance contract revenue.
24. During our deliberations, a view was expressed that if there is a problem with the presentation of financial statements, we should reconsider the recognition requirement to ensure consistency between the requirements for recognition and presentation. However, when the investment components are not distinct, separating the investment components from the remaining components would further increase the complexity and make the separation arbitrary. Therefore, if the investment components are not distinct, we believe it is appropriate to measure them in combination, consistent with the proposal in the ED.
25. On the other hand, in the case of estimated returnable amounts for which an insurance contract requires the entity to repay a policyholder even if an insured event does not occur (such as surrender value), the essential characteristics of the estimated returnable amounts are similar to bank deposits. In our view, presenting the estimated returnable amounts as part of the insurance contract revenue is not necessarily appropriate to properly present the financial performance. Therefore, we are of the view that excluding certain types of estimated returnable amounts from insurance contract revenue when presenting the statement of comprehensive income would allow users to better understand the performance of insurance contracts.
26. Nevertheless, we think that the proposed definition (that is, the estimated amount of the component of an insurance contract that the entity is required to repay the policyholder or the beneficiary that does not depend on whether an insured event

occurs³) is too broad, and that even a prepayment of an premium for future coverage might be considered as an estimated returnable amount. Preparers of financial statements pointed out that this is not consistent with how insurance contracts are internally controlled and that the costs of excluding the estimated returnable amounts exceed the benefits of doing so. Therefore, we are of the view that the scope of the estimated returnable amounts which would be excluded from insurance contract revenue should be limited to a reasonable extent so as to strike the appropriate balance between costs and associated benefits.

27. Specifically, we propose that a contract which has estimated returnable amounts should be excluded in presentation only for “a contract in which an explicit account balance is separated⁴ or which has a feature similar to a deposit.” This is based on the feedback we received from financial statement users that they typically separate components of contracts in which an explicit account balance is identified or which has a feature similar to a deposit when analyzing financial statements because the profitability of these contracts would be seen very different from other contracts, unless the estimated returnable amounts are separated. We suggest excluding such estimated returnable amounts from presentation, so as to clarify the scope of application and to strike the right balance between the benefits and associated costs.

We hope that our comments will contribute to the forthcoming deliberations in the project.

Yours sincerely,



Takehiro Arai

Vice Chairman of the Accounting Standards Board of Japan and
Chairman of the Insurance Contract Technical Committee

³ Please refer to Glossary of the ED.

⁴ Please refer to the Staff Paper of the FASB and the IASB meeting for November 2011, for how to identify the explicit account balance.